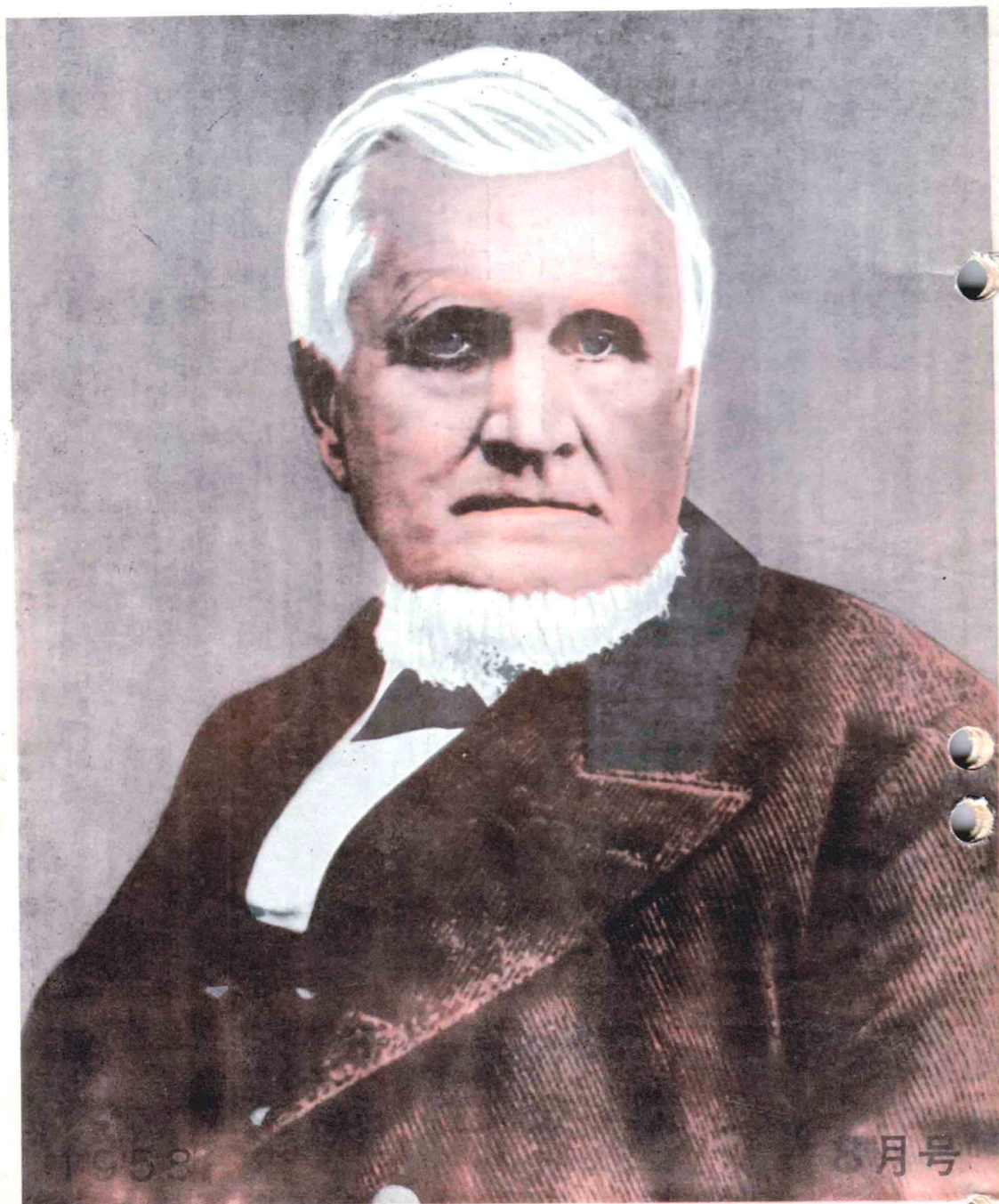


道 徒 の 聖

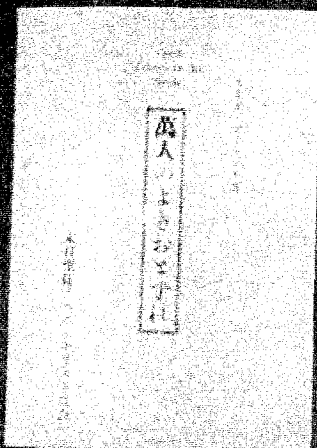
一九五八年三月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
第一巻第八号一九五八年八月一日発行



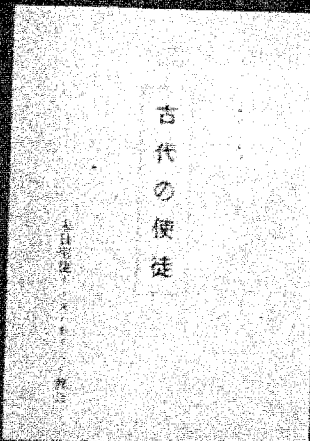
1958

8月号

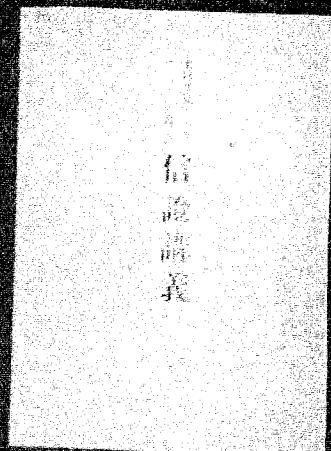
末日聖徒イエス・キリスト教会



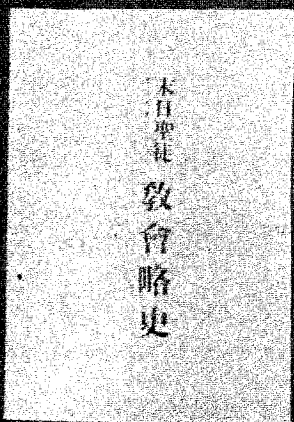
3



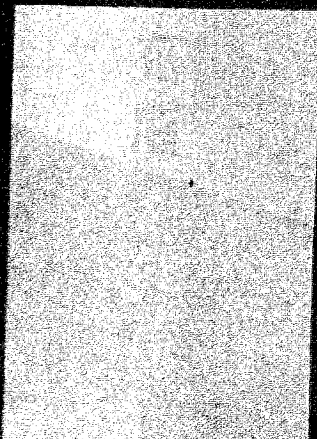
2



1



4



5

特別販売

信証義

- ジョセフ・スミスが宣明した「信仰綱要」に関する使徒ジョー
1. ーハス・B・タルメツの二十四箇にわたる講解。
末日聖徒イエス・キリスト教会の根本信条の主なるものを説
く信仰と行為に対する指導書 カルメツ著 100円

古代の使徒

- ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、パウロの伝説の中の主要な出来事につ
2. いでの説明。弟子達の異なる性格の確れた特色がわかりやすく、
マツタイ大管長は説明する。「偉大な人物はどの様にどり上げられ、
利益のある友人である」。 デビッド・O・マツケイ著 50円

万人のよきおとづれ

- 福音の譬話を主体として教主イエスの万人に対するよきお
3. とづれを簡明に説く。福音の実践を旨とする全末日聖徒の
必読の書。

カール・アイザック著 50円

教会略史

- ジョセフ・スミスに始まり六代目大管長ジョセフ・M・
4. スミスの時代に至るモルモン教会の苦難略史。

エドワード・ベイチ・マニントン著 50円

家庭と健康

- 家庭に於ける保健と衛生の基礎知識、扶助協会のレッスン。
5. 「健全なる精神は健全なる身体に宿る」

25円

聖徒の道

一九五八年 八月号

目次

「大管長メツセージ」 安息日	デビッド・O・マツケイ大管長 スベンサー・W・キンボール	一頁 三
赦しは福音の原則なり		
「伝道部長メツセージ」	日本に関するカウレイ長老の予言 伝道部長 ポール・C・アンドラス	四
御言葉を聞くのみならず 御言葉を行うものたれ	大祝福師 エルドレッド・G・スミス	五
「FEMS OF THOUGHT」 汝ら暗きを歩むなかれ 真実の謙遜とは、多くの ことを意味する	リタランド・リチャーズ エルレイ・L・クリスチャンソン	七 七
敬虔なれ	十二使徒 リチャード・L・エヴァンス	八
「質問欄」 救いとは何か？		十一
「表紙の説明」	第三代目大管長 ション・テイラー	十四

詩編

集言

「信仰と証詞」	神権えの確信 東京中央 らく推 正三 私の経験と祈り 仙臺 阿部 あつ子	十五 十五
「系図のページ」	ホーム・テイチング(三) 英国における探求(三) シヨナサン・M・チエンバレン 第二回月例地方部合同系図委員会 各支部の質問への答 渡部 正雄 お願い	十七 十八 二十 二十 二十一
「モルモン経物語(二〇) エマ・マー・ピータソン 日本伝道部の回顧(その一) 高木 富五郎」		二二 二五
「ニュース欄」	清涼な夏の箱根に宣教師大会開かる 広島支部から 日高千鶴子姉妹 小樽支部の動き 岡山支部の発展 三宮支部のMIA晩さん会 甲府支部大会 岡町初の幼児祝福 伝道本部より	二七 二八 二九 二九 三十 三十一 三二 三三 三三 三三
藻言	詩 短歌 俳句	三三 三四 三十

大管長メッセージ

デビッド・オ・マッケイ大管長



安息日

日曜日は安息日であるから礼拝の日である。日曜日は神聖である。われわれはキリスト教を信ずる国民である、而して主は、われわれが主を憶えて主を礼拝するかぎりわが国は倒れないにちがいないと約束をなしたもうた。どのような他国の民もそれを取つたりそれを亡ぼしたりすることはできない。(イテル書二章十二節を見よ) しかし、もしわれわれが主を忘れるならば主は何らの責任も持ちたまわない。(教義と聖約 八十二章十節)

最初の大いなる 安息日は、創造に対する祝福として起つた。聖書の記事は次のように誌してある。

「かく天地およびその衆群ことごとく成りぬ」

「第七日に神その造りたるわざを竣えたまえり。すなわちその造りたるわざを竣えて七日にやすみたまえり」

「神七日を祝してこれを聖めたまえり。そは神その創り為したるわざをことごとく竣えてこの日にやすみたまいたればなり」(創世記 二章一節―三節)

人間は、何故日曜日を安息日として守るべきか。

才一に日曜日は肉体の眞の發達と力にとつてはなくてはならぬものである、而してこれはわれわれがもつと広く外に声明して実行すべき原則である。

しかしながら、それ以上の何ものかがある。日曜日は着物を着換え、清潔な下着を着ける日である。「清潔は敬虔に近いとは真理であつて、イザヤは旧約聖書の中に「主の器をになう者よ、汝ら潔くあれ」(イザヤ書 五十二章十一節)と誌して居り、この命令はわれわれの有する近代の啓示の中にもくり返されている。(教義と聖約 三十八章四十 二節、百三十三章五節)

偉大な哲學者ベーコンは「肉体の清潔は、神を正しく敬うことから出ると常に見なされていた。清潔な下着を意識していることは本来それ独りで道德の力の源であり、清い良心の源を除き何ものにも劣らない」と言つた。教会の働きに活潑に従事している兄弟姉妹、とくに両親たる人々は、安息日に就て正しい模範を示すよう常に用心すべきである。

安息日を聖く守る第二の目的は「……なおさら充分に世の汚れに染まざる様……」(教義と聖約五十九章九節)にすることである。これは非常に見事な言葉である。すなわち、かの聖い自己反省をする間に沈思黙考することであり、またそれよりも一層高く、思想と感情とに於て神と交わること、すなわちあなたが今考えていることを知つてゐるほどに充分に神が近くにましますことを実感することである。あなたの考えることがすなわち眞実のあなたの姿である。

また第三の理由がある。安息日を聖く守ることは神の律法であつて、シナイ山から始まつて今日に至るまであらゆる時代を通じて知れわたつてゐる。

シナイ山の上で、モーセは偉大なる十誡の一部として次の誡命を受けた。

「安息日を憶えてこれを聖くすべし」

「六日の間働きて汝のすべての業を為すべし」

「七日は汝の神なる主の安息なれば何の業も為すべからず、汝も汝の息子娘も汝の僕婢も汝の家畜も汝の門の中に居る他国の人も然り」(出エジプト記廿章八節―十節)

あなたたちの靈の発達を妨げずに神の律法を破ることはできない。

最後にわれわれの守る安息日、週の才一日はあらゆる歴史上の最大の出来事、すなわちキリストの復活と、キリストが使徒たちの集っていたところへ復活者として訪れたもうたことを記念する日である。もちろんキリストの誕生は、必然 ことに劣らず偉大な出来事であった、従ってこれも歴史上最大の出来事の一つである。

エマーソンは「日曜日はいわれわれの文明の中核であって、専ら思考と敬神に捧げられる。日曜日は、人を最も高貴な社会に招き入れる」と言っている

「赦しは福音の原則なり」

十二使徒会会員 スペンサー・W・キンボール長老



悔い改めることと赦すことに於て

最も大切な要素の一つは神の誠命を履み行うことである。何となれば御父は末日の啓示のはしがきで「・・・主なるわれは罪を見ていささかもこれを許すを得ざればなり。さ

りながら、悔い改めて主の誠命を行

なって居り給うからである。

自らの罪の赦しを得るために、我々は先ず赦さねばならない。この点について聖典には「互に仁慈と憐憫とあれ。キリストに在りて神の汝らを赦し給いしごとく汝らも互に赦せ」(エペソ書四章三十二節)と記されている。この聖句をよくがん味して読んでみよ。

またエルサレムでの人々に対する主の祈りの中で主は「天にいます我らの父よ・・・我らに負債ある者を我らの赦したる如く、我らの負債をも赦し給え」(マタイ伝六章九節、十二節)と仰せになつてゐる。

我々に負債ある人々を我々が赦すと恐らく同じ方法でまた同じ程度にということの主は意味されなかつたであらうか。主は「われらに對して罪を犯す者をわれらの赦す如くわれらの罪をも赦したまえ」(マタイ伝六章九節)と仰せになり給うた後、「汝らもし人の罪を赦さば、汝らの天の御父もまた汝らの罪を赦したもうべし。されど、汝らもし人の罪を赦さずば、汝らの父もまた汝らの罪を赦したまわじ」(マタイ伝六章九節、十二節)と仰せになつてマタイ伝六章九節にこのことを今少しく明瞭にし給うた。

更にまたマタイ伝六章九節に對して主は

「汝ら互に罪を赦せ。まことに隣人自ら悔い改めなりと云うときにその罪を赦さざる者は、これがために自ら罪に當る故なり」(モーサヤ書二十六章三十一節)と仰せになつて居り給う。更に赦さない人々は罪に當るのである。

恐らく罪を犯したその当人よりも更に大いなる罪に相当するのである。

日本に関する

カウレイ長老の予言

伝道部長 ポール・C・アンドラス



十二使徒評議員会のマッシュ・カウレイ長老が、千九百四十九年に東京に於ける伝道本部の建物を献堂なさった時、日本国中ここかしこにくつかの神殿が建ち、日本国民は万国の民の中にあつて義を思い起させるしるしとなる日が来ると予言をなさいました。

この予言はどのようにして実現されるでしょう。この偉大な宣言の約束するところは、どのような方法で実在にされるでしょうか。この偉大な予言を実現させるには大きな信仰が入用であることは言うまでもありませんが、また誰かがたくさんさんの困難な仕事をしなければなりません。それは「信仰もし行為なくば、死にたるものなり」(ヤコブ書「聖」二章十七節)ということを知っているからであります。誰がこの仕事をし、また時間と金銭と努力の必要なきぜいを払おうとしていますか。この質問に対する簡単な答えは次の通りであります。すなわち、当教会の会員たちはみなこの偉大な計画を完成させるために協力をしようとしています。アメリカに在る当教会の会員たち、アメリカの軍隊と一しよに日本に居る当教会の会員たち、当教会に属する生粋の日本人会員たち、および宣教師

として働いている当教会の会員たちはみなカウレイ長老の予言を実現させるために共に働き共にぎぜいを払うにちがいありません。

○・・・今年には八百人の改宗者を・・・

この仕事を働き出させるために才一必要なものは何千という忠実な日本人会員であります。千九百五十八年六月末を以て、日本人には合計千九百十九名の日本人会員がありました。専任宣教師の働きはこれまでこれらの人々を教会に導き入れる主たる要素になっていますが、この専任宣教師たちはアメリカに居る両親およびその他の会員たちの力によって伝道部に於ける生活を支えられています。また合計四十三名に上る日本人宣教師たちは現在伝道中の八名を含めて、千九百四十八年に当伝道部が再開されて以来合衆国軍隊と共に来日した当教会の会員たちの力によって支えられて来ました。本年六月末を以て北部極東伝道部内には百名にも上る宣教師がおりましたがこの数は数年中に著しく増加するはすであります。昨年は宣教師によってバプテスマを施された改宗者が五百八十八人ありましたが、今年には七百人から八百人の改宗者がバプテスマを受ける徴候があります。

教会が一層固く確立するに従って、毎年この伝道部の中にある教会へ文字通り何千という改宗者が入ってくるまであまり長くかゝらぬでしょう。日本にある当教会の会員数が何万という日がくるのは遙か先ではありません。

○・・・東京大阪へ各五つ教会堂を・・・

教会の会員数がふえるに従って、集会所の必要が一層重大になります。実際、適当な集会、施設は今日当教会に於てその必要が最も重大なものであります。これらの必要な集会所は、忠実に自己の什

分の一を納めているアメリカおよび世界各地の会員および日本に於ける会員の協力一致の努力によって建てられるにちがいありません。日本人の会員たちは建築資金を募るために現在熱心に働いて居り、また末日聖徒イエス・キリスト教会に属するアメリカ軍人たちも、

この建築資金に現在大した貢献をして居ります。千九百四十八年に当伝道部が再開されてから、千九百五十七年末までに、当伝道部のあらゆる建築資金として合計千六百七十万一千四百卅一元が募金されています。以上の合計の中で千四百卅二万七千七百七十九円が日本人会員によって、また二百卅八万六千九百九十二円が末日聖徒イエス・キリスト教会に属するアメリカ軍人によって募金されています。千九百六十三年末より前に、東京・横浜地区に完全な施設を有する五つか六つの集会所が建ち、これに加えて同様の集会所が五つか六つ大阪・神戸地区に建つことを望んでいます。ひとたびこれが完成しますと、当教会は非常に早く大きくなりますから、千九百七十五年末までに当教会は日本に於て約百の教会堂を持つようになるにちがいありません。

「神の栄光は英智なり」「人は無智にして教わることを得ず」とは当教会の根本的の教義に述べてある言葉であります。従って、当教会が自分の大学を日本に設立するまでに

は長年かからないにちがいありません。更に、人口が非常に多く教育に対する要求が非常に大きいので、日本に於ては多数の高等学校ならびに二つ以上の当教会の大学がある日は遙か先ではないと思えるのであります。



訪聞した一監督にまつる話を思い出している。この監督と不活儀になった会

員の二人は石炭が赤々と燃えている暖炉の前に黙って坐っていた。所でどのようにして話を進め、また話を主題

へともつて行つたらよいかと考えていたと思われるこの監督は、やおろ手を伸し火ばしでもつて火の中から赤々と燃えている一つの石炭をとり出して、炉辺に置いた。

一人は黙つたまま坐つて赤々と燃えていた熱い石炭が除々に冷くなり黒くなつて行くのを見つめた。それから

私は今、本

当にしばしば

口にされる話

ではあるが、

ワード部にあ

つて不活儀と

なつた会員を

御言葉を聞くのみならず

御言葉を行ふものたれ

大祝福師

エドレット・G・スミス

監督はまた火ばしでもつて石炭をつまみ上げて赤々と燃えているものと火の中へ入れ、その石炭が再び赤々と燃え熱くなるのをみつめていた。未だに一言も話されなかった。しかし遂にこの会員は「監督さん、私はあなたが何を話しているにいらつしやつか分りますよ」と言つた。共に集うことによつて我々の証の火は生き生きと赤く燃え続けるのである。共に集い、共に働くことによつて我々は信仰に於ても知識に於ても大いに飛躍進歩するのである。我々は

集会に出席することによ

り主の誠命を遵守してい

るのである。がしかし教

会に於て進歩するために

それだけでは不十分であ

る。もし我々が集会に出

席するだけで止まつてし

まつたならば我々は他の教会の人達と大して違わないのである。ヤコブは「ただ御言葉を聞くのみにして、己を欺く者とならず、之を行ふ者となれ、それ御言葉を聞くのみにして之を行わぬ者は、鏡にて己が生来の顔を見る人に似たり。己をうつし見て立ち去れば、直ちにその如何なる姿なりしかを知る」と云つてゐる。

○・・・福祉計画と系図研究の関心・・・

当教会が大きくなるにつれて、福祉計画が日本に於て強力に樹立され、教会が所有し且つ運営する数多くの農場や工場が日本中に在る日は遙か先ではありません。これらの事業を運営する労力は、急速に増加する会員の中から豊富に得られるにちがいありません。

世界中で、おそらく日本国民くらい先祖に強い関心を寄せている国民はないでしょう。教会が大きくなるにつれて、系図の研究と神殿の儀式とは日本で非常に盛んになるにちがいありません。本當に、死者に代つて行う身代りの儀式という教義は、無数の日本人改宗者を当教会に引きよせるにちがいありません。ひとたび当教会が日本に於て可なり良く確立するようになると、系図の研究と神殿の儀式とは、日本国中いたるところに関心の波をまき起して、これがために当教会は驚くほど短期間に本當にびつくりするほど強くなるにちがいありません。

当教会が日本に於て次第に大きくなるに従って、教会はアジアの他の諸国民の間に神の王国をうち建てるためにますますその力を添えるにちがいありません。日本はアジアの全国民の中で経済政治文化の先端を行く者でありますから、日本はアジアの全国民の間で、当教会の福音の本拠になるにちがいありません。

○・・・カウレイ長老の予言実現へ・・・

以上のことをよく考えますと、マシュー・カウレイ長老の予言が文字通り実現するのは間近かであって、私たちの多くが生きてそれ

を目にするにちがいないことを確信いたします。日本人教会員十万以上、教会堂百以上、教会経営の大学数箇所高等学校多数、教会が所有し且つ運営する日本国中に散在する数々の農場と工場、教会所有の印刷場、教会所有の墓地、および日本国中に点在するいくつかの神殿、すべてこれらのものは間もなく実現するにちがいありません。その時には、日本国民は義を思い起させるしとしてすでに万国の民の間に強い影響力を及ぼしているにちがいありません。この偉大な働きの開拓に従事するのは私たちの特権であります。私たちは如何に良く私たちの本分をつくすでしょうか。



マシュー・カウレイ 一八九七年八月二日、アイタホ州プレストンに生まれた。一八九九年七月十一日、ユタ州ソルトレーク市にてジョージ・アルバート・スミスにより使徒に聖任されたが、当時四十八才であつた。一九四九年七月に日本を訪れ、約二ヶ月間に亘つて巡回された。一九五三年十二月十三日、カルフォルニア州、ロスアンゼルスにて逝去された。

GEMS OF THOUGHT

汝ら暗きを歩むなかれ



十二使徒会會員 リグラント・リチャーズ
かつてブリガム・ヤングは我々が聖餐式にも
出席せず、また祈りをも捧げない時に、主の
みたまは退き去り、暗黒の靈が我々の上
に覆い被さってくると語った。

所で我々の唯中には聖餐式に出席する
ことをやめ、祈りを捧げない人々が非常に多くいる。その中のある
人達は我々の近親者であり、またある人達は我々の親愛なる人々で
はあるがやはり主はそのみたまを退き去らしめ給うのである・・・
さて主は我々がその誠命に不従順であつてしかもなおみたまに与
らうとすることはできないということを知つて居給うたのである。

私は教義と聖約の九十五章の十二節を読みたいと思う。

「汝らもしわが誠命を守らざれば、御父の愛はつずいて汝らと
共にあらずその故に汝らは暗黒の中を歩かん」

人々が暗黒の中を歩む時、人々はその兄弟も主も人々もこの偉大
な末日の大事業即ち主にして救主なるイエス・キリストの大いなる
贖罪を除き、今日迄の世界にあつて最も大いなるこの末日の事業をも
愛することは出来ない。少くとも以上がこの点に関する私の評価で

ある。ある一つの啓示の中で主は予言者ジョセフ・スミスに対し次
の如きことを仰せになり給うたがその際、主は以上の如きことをそ
の心中に考えて居給うたと私は考える。

「されど見よ、われ誠に汝らに告ぐ。汝らの中聖職に按手任命さ
れたる者は多し、而して、われ彼らを召したれど、その中選ばれた
る者は少し。選ばれざる者たちは一つの甚だ重き罪を犯し、それにて
彼らは白昼暗黒の中を歩めり」(教義と聖約 九十五章五節一六
節)

真昼は一日の中で最も明るい時である。そしてその真昼のもと、
あらゆる輝しき真理の中にありながら、ある人々は暗黒の中を歩ん
でいる。主がそのみたまを退き去らしめ給う時、暗黒の中を歩んで
いる人は「どうせ私は、宗教的ではないのだ」と云う。

真実の謙遜とは多くの事を意味する



十二使徒会補助 エルレイ・L・クリスチャンソン

人々の心の中にある高慢な気持と恩知ら
ずな気持は神の目よりみて嘆かわしい罪で
ある。そして我々はすべてこれらの点に於
て罪がある・・・

今日これまで、ここで話されてきたよう
に神の御子がこの世界の中にあるすべての

ものをことごとく創り給うたことと、その血潮を流し給うることによって人類を墓より贖うことができるようにし給うことを立止って考えて見る時、我々はうぬぼれることはできず、実に御子の憐みと親切と愛の故に今この世にあって生を享けているのであるということに悟るであらうしましたこれをよく記憶すべきである。

私の意見では、謙遜とは感謝する心を意味すると思う。そして主は我々に恩知らずなことについて警告して居り給う。何とならば主は教義と聖約の中で「およそ人何事にも神を怒らせずまた何事にも神の怒り燃ゆることなし、ただすべての事の中に神の御手のあることを告白せず、その誠命に従わざる者に神の怒りあり」（教義と聖約五十九章二十一節）と仰せになり給うたからである。

どのようにしたら男も女も子供も謙遜になり柔順になることができるであらうか。またおだやかな、柔和な人になることができるであらうか。主はまたその点についても教義と聖約の五十九章の中で明かにして居り給う。

真実の謙遜を身につけている人は自らを誇張しようとはしない。このような人は報いを考えずに純粋な気持ちで奉仕をするしまた贈り物を秘かに与えて公にせず、思ひかげない時に知られるようにする。更にこのような人は、神はすべてを知り給うからあらゆる知識は神よりもたらされると悟り知るし、争いずきな人でもなく、また気まぐれな人でもなければ、あら探しをする人でもないし、神の御名をみだりに口にする人でもない。そして神の文字通りの子供として神の

御意をなしその誠命を守ることは特権であると感ずる人である。

私がこれまで云わんとしてきたことは主の御手の中にあつてよく役立ち得るために、我々は高慢な気持ちをなくし柔和でしかも謙遜でなければならぬということである。

敬 虔 な れ

十二使徒 リチャード・L・エヴァンス



「汝神の前にありては軽々しく口を開くなかれ。心を摂めてみだりに言を出すなかれ。其は神は天にいまし汝は地に居ればなり。然れば汝の言詞を少からしめよ」（伝道之書 五章二節）

九十二年前、一八六六年四月にエジンバラ大学の名譽総長に就任したトーマス・カーライルは顯著なその場の挨拶をした。

その中でカーライルは世界的な大学の一つである前述の大学の学生及び教授団に対し非常に大切な教訓であると考えてゲーテの書いた書物「ウィルヘルム・マイステルの旅行」の中から或深い思想を回顧して言った。

「世界の三賢者が共に集つて若い世代をその進歩を妨げ低下させる危険から解放して、築き上げて行く何よりも大切な機能の管理

監督に就て考え合つた。三人の内の年長者がウイルヘルムに言った。

「健康で知識のある子供たちは多くの貴重な賜を世の中にもたらす。そしてそれは屢々、わずかの援助で天性そのものとして成長している。けれども子供がその身にそなえて世にもたらさず、而もそれなくしては他のすべてのものが役に立たなくなるところの一つのものがある」

彼の側に居たウイルヘルムはたずねた。

「それは何ですか？」

年長者は言つた。

「すぐその人がそれが必要なのです。恐らく貴方さえも」

ウイルヘルムは言つた。

「よろしい けれどもそれは何か言つて下さい」

「それは敬虔の念です。私たちよりも偉大な人に対する尊敬の念、恐れなき尊敬です。エル・フルヒト（敬虔）は曾て人類の間に存しまた将来存在するであろうすべての宗教の精神です」と彼は答えた。

（トーマス・カーライルの就任挨拶一八六六）

我々は子供たちが性来のものとして敬虔の念を世の中にもたらさな
いと言うことが真実であるかどうかをはつきり知らない。けれども我
々は我々の最も真実で回避出来ない義務は我々の子供に我々自身の生
活態度と行動及び言語によって敬虔の念を教える事であることははっ
きりと知っている。ここで敬虔と言うのは場所、人及び財産並に原則
に対する尊敬、神と神の目的及び神の誠命を守ることに對する尊敬の

念であり、この尊敬の念の内に、我々の最高の永遠の達成の為のす
べての望みがあるのである。

「この故に我らは震われぬ国を受けたれば、感謝し恭敬と畏懼
とをもて御心にかなう奉仕を神になすべし」（ヘブル書十二章二
十八節）

何年も以前のことであるがトーマス・フラーは「貴方は感謝の念
の強い人の為すことはすべて善いと信じてよい」と言つたが、此
の言葉は同様に「敬虔の念の強い人の為すことはすべて信じてよい」
にも真実であると我々は信ずる。

我々の集会所に於ける敬虔

特別の敬意を表すべく多くの時と場所がある。家庭に於ける祈り
の時、両親や先生や年長者に対する態度、言葉に於て、けれども敬
虔の表されねばならぬ最も特別な場所は我々の天父に献堂された集
会所である。その一つ一つが我々が敬虔の念を保つように助けるな
ら天父の聖なる家となるのである。けれども或時には我々は自由に
親しく、またあまり気やすくする為に集团的混乱の罪を犯し、氣を
つけない為に敬虔の念がうすらいでいる。

我々は数年前、我々のワード部の一つに著名な見知らぬ人が訪れ
たのを記憶している。

誰も彼を期待していなかったが、彼が広間の中に入った時、丁度
集会の始まる前で、不注意な混雑とそうおんと高声の話と無秩序に
あたりを走りまわる事により明らかに当惑させられた。幸にも彼は

その迷惑を意としない理解ある人であった、けれども我々はこの予期せざる見知らぬ人が我々の救主自身であつたらどうであらうかと考える。(実際に於て我々の集会に天父のみたまが共にあるように、また彼の独子の名を通してそうあるように祈らないであらうか?)

(我々が救主の面前に於て或なさねばならぬ事及びなしてはならぬ事がある。一人の我々の兄弟が彼の習癖に反対する若い人から問われた。「貴方は若し主の面前に伴われたとしたら煙草に火をともしますか?」我々もまた若し彼の面前にあつても大声で騒がしく不注意であるだらうかと問われる)

我々は陰気な人生を信じない。我々はジョセフ・スミスの言葉「我々の生きている目的は幸福を得るためであり、若し我々がそれに導く道を追い求めるなら最後に到達するであらう。そしてその道は貞節、高潔、忠実、至聖、すべての神の誠命を守ることである。」と信ずる。けれども我々はまた同様に心から次の事を信ずる。即ち実際に於て我々が我々の天父を招いて、そのみたまと共にある時に我々の子供たちが敬虔の念を表すことに失敗するなら、我々は天父に対して感じ得るであらう非常な親密感を失うであらう。

すべての軽卒な言葉を止めなさい

この勧告が必要な時我々は教義と聖約の次の助言に耳を傾けよう。

「この故に汝らすべて軽々しきことを言うを止め、またすべての笑……輕薄なる心……を止めよ」(教義と聖約八十八章百二

十一節)

先日、或日曜日の朝CBS放送に我々は二、三分の話の主題に「敬虔」を取上げ「敬虔なれ」と標題したがここにそれを回想して結論としよう。

「すべての真の喜びと進歩の力は何か敬虔なものを発見することにかゝっている。そしてすべての卑劣さ及び人類のみじめさは、さげすむことに始まっている。」

ジョン・ラスキンのこの言葉は不敬虔の或る結果、或敬虔を提案している。或不敬虔は子供の騒がしさのような不注意よりも、よくない、ラスキンの語る処によると或は故意の皮肉な輕蔑に現われる。

或は神を冒瀆する言葉に現われる。或時はただその態度だけであるが或時は静かにしていなければならない処に混乱と無秩序となつて明示される。真の敬虔は窮くつな張りつめた技巧的なものでなく、人の靈魂の真実な意識で或る神聖なものである。輕卒に語り軽々しく考えられない処のものである。我々は偉大なる芸術家、偉大なる音楽家、偉大なる心の持主の面前に於ては正しい敬虔の念を持つ。然らば天と地の創造主であり、その像の如く人が造られその智慧と業は無限であり、我々の生涯の豊かな祝福、即ち循環する四季、

収穫、家族及び友人の愛、我々の實在及び來世の確信等を援けてくれる天父に対し、我々が敬虔と従順の念を持つことは如何に当然なことであらうか?

若し我々が神聖な業と方法に敬虔の念を失うなら我々は更に多くのものをも失うであらう。敬虔の念をさびつかせる腐蝕はまた他の

立派な感情をもさびつかせる。人生が陰気なものである必要がない事は確かである。また多くの時と場合に於て心を楽しますユーモアや軽快な話や、かたばらないうちとけた又憎などに託さるべきであり、人生の重要な一部であることも明らかである。けれども一方に於て、神聖な場所、神聖な時間、敬虔の念を以て当らねばならない神聖な問題がある。そしてこれ等に対し無感覚な者は或時にはある本質的な教育が性格に欠けているのではなからうかと疑われるのである。我々は十七世紀の時代よりこれ等の言葉を推奨する。

「汝、神或はその属性を語る時汝の言葉を深く敬虔ならしめよ、神聖な事にふざけたり軽々しい言葉を口にすることは不幸な不信仰であり天に義憤をもたらしすべての人をして汝の信仰を疑わしむに至る」

「常に何事にも敬虔の念あらしめよ」(礼記)

家庭訪問の教師が次の訪問をする時、家庭の時間の一部にこの勵ましとなる文を家族の人たちが読むことが望ましい。これは教会幹部が管理監督会と協力して討議した月例家庭訪問の一連の主題の一つである。

二十五年以上に亘ってタバナクル、聖歌隊及びオルガン放送の記者、アナウンサー、監督及びプロデューサーとしてリチャード・L・エヴァンスは無数の聴講者に知られている。彼はまた長期に亘って編集者としてエラに協力している。彼は一九三八年の十月から一九五三年の十月迄の間七十人会最高評議員会の会員をつとめそれより十二使徒となった。

質 問 欄

救いとは何か？

「質問」

救いとは何か。

「解答」

教会が組織される前のこと、主は予言者ジョセフ・スミスに次のような御言葉をたもった。

「・・・およそ、救いの賜に勝る賜はあらざればなり」この御言葉は後に与えられた若干の啓示の中に繰り返し宣べられている。またある時予言者が予備的な訓練を施されていた時、主は更に次のように宣言された。

「もし汝わが誠命を守り終りまで忍ぶならば永遠の生命を得ん、これは神のあらゆる賜の中最大なるものなり。」故に救いとは永遠の生命(生活)であり、換言するとこの救いに与るためには永遠の生命(生活)を得ねばならないという事を知るのである。モルモン經典の中にも、永遠の生命(生活)または救いが主とその御子なるイエス・キリストを受け入れる者に約束されていると誌されている。生命(生活)と救いとは永遠のつながりを持ち、誠にわれわれの教会の指導者たちは常に「生命(生活)と救いの福音」という言葉をししばしば使っている。

救いの意味に関するこの概念を得ると、おのづから「生命」(生



「活」の定義も必要とされて来るであろう。人類は前世を有し、更に永遠を通じて生き続ける。即ち人間は不死不滅の存在であって、それであるが故に、単なる存在としての生命（生活）と存在より生ずるより大いなる何物かとしての生命（生活）を明確に区別する必要がある。

ブリガム・ヤングは次の言葉によって極めて人の心を感動せしめる定義を下した。

「救いは人間の、天使の、及び神々の全き存在、更にかつてあった生命（生活）未来にあるであろう生命（生活）……永遠の生命（生活）を意味する」と。

生命（生活）は単なる存在以上のもので「全き存在」こそ生命（生活）である。生命（生活）は活動的であるが、存在は静止的であり、生命（生活）は進歩するためにその力を使用して、前進するが、存在はいつも同じ所、今日ある存在は昨日あった存在の所に留まっている。生命（生活）は人間の最も高い理想を実現する事である。主はモーセに次のように仰せになって、この事を明らかにされたもうた。

「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをも

たらすなり。」

またキリストなるイエスも次のように云われている。「われは復活なり、生命なり、我を信する者は死ぬとも生きん・凡そ生きて我を信する者は、永遠に死なざるべし。汝これを信するか」

○・・・末日聖徒の最終目的・・・

生命（生活）は常に存在とその意を異にし、すべての末日聖徒が到達したいと望んでいる目的、即ち終りなき発展と進歩とを含む生命（生活）はこの教会の会員のすべての最終目的である。

予言者ジョセフ・スミスはその説教の中で救いのこの定義に次の言葉をつけ加えた。「救いとは、人間が自己のすべての敵の力を超越した状態に置かれる事」「救いとはすべての敵に対して勝利をおさめ、彼らを自分の足もとに屈服せしめる事である。われわれはこの世であらゆるすべての敵を屈服せしめる力を持ち、来るべき世に於てすべての悪霊に打ち勝つ知識を持つなら、すべての敵を屈服せしめて最後の敵を死に至らしめるまで統治する筈であったイエスの如く、救われるであろう」ここには単なる存在については何ら書かれていない。

この言葉は活動——外的、及び内的両者のすべての敵のうち勝つ事を明らかに意味している。

人間に永遠の生命（生活）を得しめるための条件は救いの計画の中に示されている。事実、この計画は不変の律法であって、この律法の一つ一つに従順なる事により人間は惡のうち勝つ事が出来る。故にこの計画の中には得なければならぬ知識、受け入れる必要がある行動の原則、及び儀式、生涯を通じ実行すべき義務、イエスをキリストとして受け入れる事即ち肉体的、精神的、靈的に健全さを得る事が含まれている。これはすべて人間が「皆その肉体の死によりよみがえりて不死不滅に入り永遠の生命を得ん」ためである。

無智、誘惑、貪慾等「敵」が何であつても、律法に従順であり、それらに打ち勝つために自己の力を行使する者は、救いに至る道を歩んでいる人である。しかしこのように自己の力を行使しない人にとって、生活はその全き働きをなさず、真理の光は消え去り、敵によって亡ぼされる存在である故、救いより離れ去ってしまう。故に救いは神の御計画の下に定められると云う事が出来るであろう。

○・・・律法に完全に従順なること・完全な救い、即ち全き、永遠の生命（生活）

は生命（生活）の律法に完全に従順である事、主イエス・キリストの福音に完全に一致した生活をする事によって得られる。それ故、人間は主の御助けによって自らを救うと云う事が出来る。（教義と聖約 二十九章四十四節—四十五節）

人間は律法に如何に従順であるかが、個人個人によって相異っている故、救いにも異った段階がなければならぬ。人間は如何なる救いの段階にも入る事が出来る。「わが父の家には住家多し」

自分の力の一部しか行使しなかったり、またその力を不適切に行使用する者はみな完全な生活をしているとは云えない。自分に課せられているすべての義務に従順である人たち、完全な生活をしようとしている人たちのみ、完全な救いを期待する事が出来る事を知る必要がある。この種の人たちは神の息子となり、神やキリストと共に住い得る所を継ぐであろう。

救いが若しこゝに定義されたように永遠の生命（生活）というものであるなら、救いはこの地上に於て始まっているか、若しくは人間が前世の状態にあった時にすではじめられていたかのいずれかであると云う事が出来る。

る。この地上に於て進歩するために自己の力をどの程度まで行使するか（どれ位努力するか）また律法をどれ位よく守るかによって、救いの備えられた状態に向って歩む事が出来るのであるが、しかし、自分の最善の努力が如何に払われたかによって審きの日にわれわれの救い——最終目的が決定づけられるであろう。

救いのこの意味は容易に理解されるであろう。肉体が健全に保たれ、この世の仕事に従事するに適切であるためには、ある種の法則に従わなければならないし、精神が全きつとめを果すためにも、それ自体が適切に養われ、行使されねばならない。霊が人間自身によるこびを与えるためには、ある豊的な業が遂行されねばならない。このような状態のもとにある時のみ、全き生活が実現され得る。故に同様に救いに与るためにも人間の力の及ぶ限り、真理の律法のもとにあるこの世のすべての力が行使されねばならない。堅実な進歩をなすためにはこれらの力が整合されて使われる事が必要なのである。

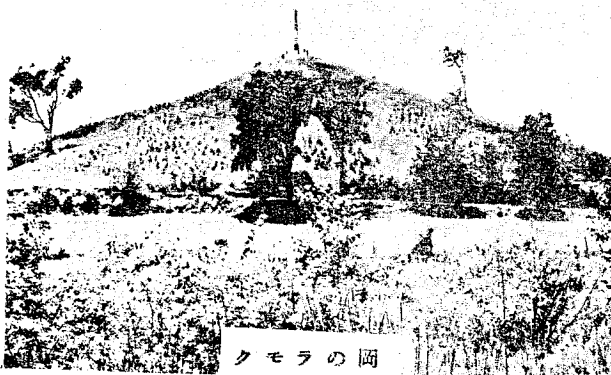
救いを求める時、即ち活動的な永遠の生命（生活）に与るためには、この世に於て適切な活動によって自らの備えをしなければなら

ない。

○・・・救いに関する概念は・・・

救いに関するこの種の概念は地上に於ける教会の活動が何故人間生活の全面に関連を保たねばならないか、また何故活動が来世の生活の特徴づけべきかを説明している。

福音の中には未だ人間に啓示されていない事柄が多々あるが、われわれの今知っている事は人間の容易な理解力のとどく範囲内にある事柄である。誠に啓示によって示された救いの意義はこの言葉についてしばしば発生する多くの混乱を一掃せしめている。



クモラの岡

才三代目大管長

ジョン・テイラー



イター大管長は一八〇八年十一月一日、英国のミルソープに生れた。

彼は一八三八年十二月十九日にブリガム・ヤング及びヒーパー・C・キムボールの按手により使徒に聖任された。

ジョン・テイラー大管長は早期に於て教会に加入し、ジョセフ・スミスの忠実な支持者の一人で、激化した迫害の為に他の人々が教会を去った時でも忠誠を守り続けた。ジョン・テイラーはジョセフ及びヘイラム・スミス及びウィラード・リチャーズと共にカーセーの獄中に在った。三月、大祝福師が殉教した時彼も四つの傷を受けて、死ぬのではないかと思われた。テイラー大管長は彼の日記

の中で彼は死を恐れなかったが、残りの生涯を不具者となることを恐れたと言っている。けれども彼は主に祝福されて、死ぬこともなる完全な健康体に回復し、強い体力に復した。

ローガンの神殿を献堂した。神殿の地域は、一八七七年の五月十七日にオルソン・プラツトによって献納された。くっさく作業は五月二十八日に始められた。一八八四年の献堂式は、三日間続き、非常に厳粛壮厳で印象的であり聖徒たちは生ける者と死せる者との救いの儀式の執行出来る、もう一つの主の家が建った事を喜び合った。

ジョン・テイラーが教会の大管長であつた時、教会とその会員たちは残忍な迫害にさらされた。合衆国のすべての人がモルモン撲滅と言う共同の目的に結合しているかのようにあつた。合衆国の法律でさえ無視してモルモンから自由市民権を奪い去つたのであつた。

一八八七年の初期に迫害の爲、ジョン・テイラー及び副管長たちは逃避するの止むなきに至つたのであつた。彼は一八八七年七月二十五日避難してゐたユタ州デヴィス群ケイスワイルのトーマス・P・ロウチの

家で死んだ。

それは彼が支持していたところの真理に対する殉教であつた。彼が死ぬ時副管長たちは彼と共に在つた。彼の生涯は試れんと苦難の生涯であつた。彼は悪と妥協せぬ、丁度その行いの如く確信の強い英雄的性格の持主であつた。ここに彼が死ぬ時の副管長たちの言葉を用ゐるのが適當であらう。

「ジョン・テイラー大管長は、この領地で合衆国政府を誤って代表した役人たちの苛酷な手によって殺された。彼が若しその奪い取られた多年住みなれた家庭の慰安、家族に対する務めを許されていたらもっと多くの才月を生きのびたであらうことは疑いないことである。彼の血は、残忍な憎しみを以て彼の捕縛に報 償せんとし、彼を墓穴へと追いこんだ者たちの衣服に塗られた。歴史は彼等にふさわしい名（当然受くべき汚名）を以て彼等の行為を呼ぶであらう。」

正誤

X ゴルドン・B・ヒンクレイ著「モルモン
 X とは？」の中の一節を左の通り訂正します。

X
誤

八百四十員 六行目 モルモン教徒の実施している事は

正

X
//
//

5
//

モルモン教徒の実施していた事は

[illegible]

信仰と

証詞

神権への確信

東京中央 礪推 正三

私達、礪推一家がモルモンに改宗した記念からしてもこの発表は意義があるものと考えられる。

まことに残念ながら五月十五日私共一家は礪推姉妹を霊界に送った。私も子供二人も最愛の妻であり、母を失ったことは悲しみてもなお余りあるものであるが、これまた天父の御計画とあらば何をか言わんやである。

神権をいとき如何様にしたならば最善にこれを用いることができるかということ、は、私の課題であった。幸にして支部の中に居住することを許されている私達は、多くの兄弟姉妹と接する機会がひん繁でありまた福音の御用をなす事も非常に多い。それと共に会員の喜びや悲しみに絶えず直面しているから、日常生活の中にさえ神権の業は常に用いられている。神権の力はあらゆる場合神の御用に全能であるから。

神権者である者は常にこれを良く用いる様心懸けねばならない。家族はまた神権の恵みに浴して平安であり協力して福音のために責任をいたゞく喜びを得ているこのことはまた改宗一年の成果の内に数えられる恵みの一つである。

モルモン経による神権の働き、教義と聖約による行動への予言、それは予言者ジョセフ・スミスを通して我等に与えられたものであることを確信を以て証しができる。

前述の通り愛する者を霊界に送りはしたが、以前プロテスタント教会に於てなかつたもの――今末日聖徒の死者に対する教義は単に慰められるばかりでなく、まことに勇気づけられて永遠まで私を楽しくしてくれる。私の念願は末日聖徒の信仰を貫ぬくために常に戦っている者、そして生活上にも救いを要し兄弟愛を実践するためにも福祉的計画を持ちたい。福音未開拓のこの国には我等の教理に

於ては困難が多過ぎる。素晴らしい喜びの信仰を続け永遠の命を確保し、天父に愛されるためにこれらの計画の具体化を早急になさねばならないと、う。幾度も歴史の上に試みられた信仰と経済の一体化こそ末日聖徒によってのみなされるべきと確信を持って祈らねばならない。幸にして残れる礪推一家三人の健康は無事。また証しも確実、故に幸福への希望はすばらしく大きい。支部の中の小さい部屋で朝早くペンを取る。窓の外 高い雲の下を カン高く鳴く小鳥が一羽とんだ。改宗して平や一年になる

私の経験と祈り

仙台 阿部あつ子

一九五八年六月一日(日)この日は北地支部大会、それと共に私達姉弟永遠に忘れずの出来事母のバプテスマの日です。朝七時、前仙台支部長渡部兄弟の名づけられた仙台のヨルダン河(広瀬川)において多くの宣教師始め兄弟姉妹求道者より祝福を受け特に渡部兄弟よりすばらしい祝福の御言葉をいたゞき、主に守られながら弟がバプテスマを施し、今こゝに母は神より一人の子供として選ばれました。私の小さいながらのしかし、心からなる祈りは三年程

した。そして今主は私の祈りを聞き届けて下さいました事を主に心から深く感謝の気持ちで一杯です。私達は幸福で一杯です。何故なら姉二人、弟、母と五人会員となりました。

私は母に姉（結婚した姉今年の二月会員となる）と一諸に家庭集会を受けるように話しました。母は「まだ受けたくない」とことわりました。その時私は今までの自分の祈りがまちがっていたのだろうかとうたがいたくなりましたが正しい祈りなら必ず主は答えて下さることを確信しておりましたので、すぐ座敷に行き暗い部屋にひざまづいて心から主に願い、終った後自分で「あゝ大丈夫だ」と思われたのもう一度コタツにあたっていた母に話しました。

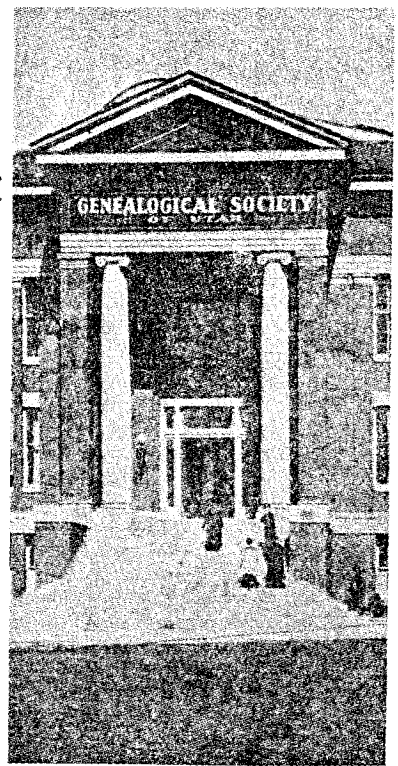
（二月）すると母は「受けてもいい」と云い「いつ行けばいいの」と申されました。私の祈りはまちがっていませんでした。母は姉と共に二、三度オースチン長老より集会を受け、長老が二月に帰国後は新後閑地方部長が老いている母を親切にわかり易く導いて下さいました。長老に心から感謝の気持ちで一杯です。その後母は毎日曜餅校聖餐式と出席し、より真理を深め、聖餐式

の後に集会を受け、母の心も和らぎだんだんと神に対する証を持ち、やっと受けるようになりましたが、更に神に願わなければならぬ事は父にサインを貰う事です。家に帰って私はカバンよりサインの紙を出す前に例の場所に行き心より神に祈り「あゝ大丈夫だ」と一人で口から出してしまいました。父は喜んですぐペンを出しサイン

をしてくれました。大会の前夜、余りの嬉しきで眠れずに過れずに過しました。午後の証詞会の時に母は伝道部長さんより按手礼をしていただき私達家族はこの上ない幸福と喜びに満たされています。そして今は日夜母と代るがわる食事の祝福をしています。すべて神の恵みと導きの賜物と心から感謝しています。



ソルト・レーク南テンプル・スクエアのともめの碑
（ルモン四者に対する神の慈愛を深く記念して建てられた。）



系図のページ

ホーム・ティーチャング

(三)

＊効果的な接近＊

ホーム・ティーチャーの最初の務めは、彼が援助しようとする人たちの善意と友情を克ちとることである。これが成功した時、当然に彼が訪問する家庭の内に彼の提供する援助に対する真実の希望を起こさせる必要がある。

如何なる計画でも成功させる為に先ず必要なことは、為さんとする決意、すべての事を理性に従って為さんとする意志、希望する目

標を完成せんとする意志である。

訪問する家庭の各人の心の内に彼の先祖たちに関するすべての可能な情報を得て、先祖たちの為に神殿の儀式が執行され得るようこれを適正に整備しようとする強い意欲を生ぜしめるようにあらゆる努力が払われねばならない。これがすべてのホーム・ティーチャーに対する最初の最大なる挑戦（課題）である。

ヒーバー・ジェー・グラント大管長は言われた。

「私は我々が為さんと欲する殆どすべての事を理性の限界内になす事が出来ると言う事実を完

全に覚えた。私は人が若し神殿の仕事をしようにと言う望みを持つてゐるならばそれを為す道を見出し得ると信ずる。大切なことはその望みである」。

ホーム・ティーチャーはそこで実際に必要な援助を与えることにより、家庭の人たちに生じた望みを満足させねばならない。その援助は或は教義的な指示であるか、正確な記録の編纂に就ての情報であるか、探求の基礎的指導であるか、または神殿訪問の準備に対する賢明な指導であるかも知れない。

ホーム・ティーチャーはホーム・ティーチング計画を実施している時に次のようなタイプの人たちに逢うであろう。

- 一、敵対的或は冷笑的人物
- 二、価値ある人生に無関心な会員
- 三、神殿に行く人
- 四、探求熱意家
- 五、模範的系図家

以上にかんがみホーム・ティーチャーが家庭訪問を成功させようとするならば彼は上述の範囲に属するすべての人とはよく知己となり、個人々々に特に教えらるべき適応せる指示の訓練を受けて居らねばな

らない。彼が彼等の宗教的背景及び世嗣、彼等の従前の経験及び現在の態度、たゞ等が彼の訪問を歓迎し、そのメツセージを受け入れることの障害となつてゐる如何なる智的障害があるか等に就て学ぶことは有益なことである。

各ホーム・ティーチャーは彼が訪問するように割当てられた家族の会員各人の関心（利害関係）に訴える専門家となるよう努めるべきで、彼等の関心（利害関係）が生来のものであるか、習得されたものであるかを知らねばならぬ。彼等自身の現在並に将来の福祉をよく備えようとする望み及び彼等の両親や子供たちの幸福を保証しようと言う望みは、大部分の人の根本的な傾向である。この愛のきずなにより彼等に最も近い人たちへの、より直接的な関心（利害関係）から関心（利害関係）の鎖は次々に、けれども確実により遠い先祖に戻って行くことが出来るのである。偉大なる心理学者、ウィリヤム・ジェームズ教授は曾て言

「それ自身の内に関心（利害関係）のない如何なるものでも

既に関心（利害関係）の実存するものと交通することにより関心（利害関係）あるものとなる。二つの交通したものは共同の存在として成長する。関心（利害関係）の部分は全体に普及する。このように自身の内に無く、借用したところの関心（利害関係）が生来の関心（利害関係）と同様に實際的に強くなるのである」

故にホーム・ティーチャーはこの関心（利害関係）の法則によって直接関係している者たち及び関心（利害関係）を明らかにされた人たちが鎖によってつながる迄、遠い先祖たちに関心を持つように要求しないように注意せねばならない。

* * ホーム・ティーチャーに授けとなる提案 * * *

一、ホーム・ティーチングの仕事
を始める前に、すべてのホーム・ティーチャーの組（二人）は彼等の訪問に際しての神の援助をへりくだって求めること。

二、各家庭の人間的な問題を学び、

訪ねる家の各人をよく知ること。

三、先づ何を教えるかを学び貴方の教授内容を豊富にしておくこと。

四、貴方自身が神殿の儀式の必要性を自覚して居り、神殿の儀式の会期に頻繁な出席者であること。

五、貴方に授けられた任務を完成

させる為の貴方自身の才能に対する謙遜な確信を持つこと。

六、訪問に際し、出来るだけの探求の機会を見つけて努力し完成した貴方自身の家族の記録を携えて行くこと。

英国に於ける探求（三）

ジョナサン・M・チェンバレン

私は次に私の先祖たちが住んだ各教区を訪問しようと計画した。従って一九五二年の十月に三日間の休暇をもらった時、私はバクシヤー県の記録保管人、フェリクス・ハール氏に逢うべくバクシヤー県のリーディングに旅行した。ハール氏は慰勸に私を歓迎した。私が軍人だったので彼は私が彼の集めた原本の教区の記録を探求することを許してくれた。

ジーヴエリは石造又は煉瓦建の若干の家がかたまつて建ち、低い岡の一方に古い教会堂の建っている小さな村である。そこで私は以前から文通していたキャノン・ハセルに逢い、何故私が来たかを告

げた。彼はチェンバレン家のわずかに生存している子孫の一人が未だに居住している道の向いの家に私を案内した。花の咲いた前庭に年と労苦で腰のまがった小さな老婦人が立っていた。彼女の指は庭いぢりの為すりへつてすりすりしていた。彼女の手は無駄に見えていた。これがテイラー夫人であった。私が自己紹介すると彼女は興奮して、彼女の父の名もまたジョン・チェンバレンであったと叫んだ。

彼女は彼女が最年少者で十四人の子供の内唯一人生存しているのがあると云った。彼女は七十四才だと言った。私たちは家の中に入り彼女は私を夫に紹介してから坐っ

て「バクシヤーラウディ」を一片、たのしむようとすすめた。それから彼女は既に亡くなった彼女の姉妹であるベツシーがユタの従兄弟と文通していたと告げた。テイラー夫人は、未だにベツシーの或る手紙と写真を持っていたと思つた。彼女は私が教会の庭の墓石の刻字を調べに少しの道を歩いていく間にそれ等を探し出してくれると同意した。

私はチェンバレンに就ての情報を含む幾つかの刻字を写し取った。私が最後の刻字を写し終った時、キャノン・ハセルが教会に入つて来たのに気がついて、彼に私が記録を見る事が出来るかどうか聞いた。彼は彼が既にチェンバレンの登録を抜萃してユタの或るチェンバレン家に送つたと説明した。然しながら私はそこには若干の資料が欠如して居り、私はそれ等がこの記録にあるのではないかと思つて特に調べて見たいと言った。彼は私がモルモンではないかと思つた。そして私はほんとの事を打明けると偏見から彼が私の探求を許さなくなるのではなからうかと恐れたが私は正直に答えた。すると彼はより友好的になった。

そしてわずかの対話で彼は私が其処に保存されてあるすべての記録を探索するのを手伝ってくれると同意した。

私たちは祭壇の一方の部屋に入った。其処で彼は出生、死亡、結婚の記録の充たされた鉄のトランクを開けた。その内の或るものは一六〇〇年度迄遡っていた。

私たちは各巻を精読し、私は私の家族の姓の記入されてあるすべてを写し取った。驚いた事に私が探し求めていたそのものの登録を発見した事であった。それ等は今迄見過ごされて来ていたのであった。その時私はそのような書体に關する私の経験の故に早く読むことが出来た事を感謝した。私はキヤノン・ハセルに彼が時間をさいて協力してくれた事に感謝してテイラー家に戻った。

テイラー夫人は幾枚かの写真を見出すことに成功したが手紙は発見出来なかった。彼女は彼女自身にも不明な数枚の写真を見せてくれた。その内で只ベツシーだけが判明した。木の額ぶちに入っていた一枚の大きな写真が私の眼にとまっていた。それは何だか見たことあるような人の顔であった。私は裏に何

か書いてないかと思つてその写真を額ぶちからはずして見たいと思つたがテイラー夫人はそれを心よく許してくれた。私はその写真の裏に次の言葉を見出して大喜びした。

「私の従姉妹ベツシーへ、オーダヴィル・ユタ・トーマス・チエンバレンより」

私は言い表すことの出来ないスリル感を味った。何となれば私の知る限りに於てこれは私が最初に見た祖父の写真であつたからである。彼女はその写真を私に下さつたが、私はそれを大切に宝として保存しよう。彼女に深く感謝して私はバスに乗り、ニューバリーに戻つて夜を過した。私は日中の発見を顧み、ほんとに祝福された事を感じ、寒い小さな部屋にひざまずいて神に感謝した。

翌日は日曜日であつた。私はシーヴエリから数哩西方のウインターボーンに行った。

ウインターボーンの教会堂は町の西方の小さな岡の上に建つていた。教会堂の周辺に風雨にさらされてくずれかけた多くの墓石が建つていた。朝の礼拝を準備する為に世話人が来た時、私は登録を調

べることを許してもらつた。

其処での探索の結果私は私の祖父の祖父のステイヴン・チエンバレンがジェミマ・ブルクに結婚した登録を見出した。私は私の家の姓のすべての登録を写しとつた。

集會の後、私は探索を終えて更に西方にある次の町に向つた。そのボックス・フォードではわずかの時間しか探索出来ず、バスでニューバリーに戻らねばならなかつた。

その午後私はリーディング支部で話をするように頼まれていたからであつた。ボックス・フォードの牧師とその奥さんは私に対し非常に親切にしてくれた。彼等は私が一日中何も食べていないのに気がついて若干のリンゴを下さつた。私は再びこれ等の町村に戻る機会がなかったがしばしばリーディングの官文庫を訪ね、その登録から多くの情報を写しとつた。

私の探索期間中は私は探求家として行動した。私は見たところのものをすべて写しとつてソルト・レーク市のスーザン・マセイルに送つた。そこで彼女は私の発見したものを精査し姓名と情報を家族にまとめて神殿の仕事へ備えた。私は今仕事に着手したばかりの

ような気がしていたが、私の両親がケンタッキーに伝道に出かけた間に、応召に呼ばれた兄の兄弟の代りに酪農場の家に呼び戻されることになった。

教會は今やリーディングの記録のマイクロ・フィルムを持ってゐる。そして私はこのユタで更に探索を継続しようと望んでゐる。

英国から戻つた私は、私が送つた情報から六十の家族の記録が完成されて神殿の仕事の為に提出された事を知つた。其後私はカナダから私の日曜学校のクラスを伴つて神殿に行き、私が英国に居る間、主が私を援けて見出した一三三人の私の先祖の為に、彼等(クラス員)にバプテスマを授ける素晴らしい特権を持ったのであつた。

(完)

* すでに死んだ親族のため *
* に行う責任を怠る聖徒 *
* たちは、自分自身の救い *
* を失うのを覚悟しつつそ *
* の責任を怠っている。 *
* ジョセフ・スミス *

才二回

月例地方部合同系図委員会

六月十五日、東京中央支部に於て午後四時より六時過ぎ迄主題の件開催。

先ず北支部長大塚兄弟の体験談から参考になる。

点を左記する。

一、最初系図のみを調査し家族の記録を無視していたが家族の記録が神殿の仕事に最も大切であることを銘記し、これに力を注ぐべきであること。

二、郷里へ調査に帰る前に出来るだけ多く調べて準備しておくこと、郷里に行った時質問又は調査すべき項目をはっきりさせておくこと、ただ漠然と帰郷してもたいした収獲はない。

三、戸籍謄本などは詳細によく全部服を通すこと。

四、除籍は以前は隠居した年で死亡した年でない場合がある。
五、先祖の直系子孫即ち自分の遠縁にあたる親族の名前をメモしておくこと。

次に福田長老から、

「系図に関し問合せる時は返信料を添えて出す程の熱意が欲しいこと。また系図探求上の一切の文書手紙等は整理してファイルしておくこと、すべての情報をメモしておくこと、どんな遠縁の親類からでも出来るだけ多くの情報を得て置くこと」。

等懇切な指導があり、最後に渡部兄弟が会長各人の責任分担及び支部四半期報告書に就て説明を行った。

各支部の質問への答え

各支部の系図委員からの質問を参考の爲掲載します。

一、西宮支部系図委員会会長、植村茂夫兄弟

(1)各責任の分担(各副会長の責任)

(答)ワード部に於ては才一副会長はエンダウメント及びシーリング、才二副会長はパプテスマの責任を持つが、神殿と離れている伝道部に於てはこの

責任がなく、それだけ、ホーム・テイ・チング及びワークナイトに全力を傾注する。会長と交互に系図委員会又は系図特別集會を司會し、社交遠足、其他の行事を企画する。

(2)書記の記録に就て、またその報告の仕方

(答)系図委員会のすべての集會の記録、其他活動の報告、ワード部に於てはワード部会員の神殿活動の報告をも含むが、支部に於ては四月号聖徒の道に掲載されたステーク部委員会報告表のホーム・テイ・チングの欄だけの四半期報告を四月、七月、十月及び一月の各月十日迄に本部に提出すること

(3)系図について戸籍の信頼度

(答)他に確実な証明がない限り戸籍に依る。

(4)不明瞭な確定的でない資料の採用度

(答)はっきりする迄調べ。最後迄調べてなお不明な時は(?)をつける。

(5)幼名と成人名のある人はどちらをとるか、

(答)戸籍が成人名に変更されてい

る時は成人名の下に括弧の中に幼名を記す。

変更されていない時は之と反対にする。

(6)結婚前と結婚後の改名の場合

(答)夫の場合七月号参照、妻の場合、ファミリー・グループシートに家族代表者の欄を除いてすべて結婚前の姓を用う。

二、群馬支部系図委員会才一副会長、福沢昌子姉妹、(福沢姉妹は会長になるように望まれたそうですが、会長は神権者でなければならず支部の場合には特に才一副会長に姉妹になることが出来る。ワード部に於ては会長(大祭司)才一副会長(七十人)才二副会長、(長老)となっている。

なお系図委員会未組織の支部にジョセフ・ファイルディング・スミス長老の言葉は読むべきであろう。

「教会は補助組織がなくても運行出来る。けれども神権がなくては運行出来ない。そして系図は神権の一部である」(一九五〇)

(1)本年度系図のクラス、テキストの進め方

(答)七月号日曜学校ガイドに発表済

(2)系図のクラスに対する系図委員会長の責任

(答)これは日曜学校の系図のクラスであるから当然日曜学校会長の管理に属す。然し系図委員会が之と協力することが望ましい。

(3)系図のクラスを日曜学校の分級以外に行う場合日曜学校と同じようなきまりがあるか

(答)これは止むを得ざる特別の場合であり此の場合は系図委員会会長の責任で行う

(4)テキスト「家督権の祝福」の参考資料があるか

(答)本文に参照された以外特別なものはない。一般の図書館で西洋史其他史実に関する書物が参考となる

(5)系図の「ハンドブック」があるか

(答)英文は二百円である。日本文は必要な部分のみを訳して毎月聖徒の道に連載している。なおワルゼン姉妹が特に日本の系図の探求の為に書いて下さったテキストがあるので八月中に訳して出す予定。

(6)「個人記録」の生涯の重要な出来事の項で教会での地位と言うのはどの程度以上か

(答)支部内で務めた役職を出来るだけ多く記す。

(7)幹部等との対面には個人的対面ではなく大会等で話を聞いた事も含まれるか

(答)個人的対面を書いて更に余白あるときは後者をも記入してよい

(8)住所が町村合併で新市町村名になった時何れを書くか

(答)旧市町村名(現在 ZOOY として新市町村名)

(9)直系卑属なしに死亡してしました人たちでその人々が私共の両親の兄弟姉妹である場合「家族の記録」によって死者のバプテスマは行え得るか

(答)行える。元来死者のバプテスマは家族の記録に基いて行われるので系図はその参照の為に提出されるのである。バプテスマに続いてエンダウメント・シーリングも家族の記録により執行され「家族の記録」が完成されるのである。

(10)系図のクラスではテキストに就ての研究だけでなく「系図」記

入や調査等に就ての研究も含んだ方がよい。

(答)日曜学校の分級の場合は含まれない。従って別に系図の集会を定めて行うべきである。日曜学校の分級でなく特別にクラスを設ける場合は、これを含めてもよい。

お願い

一、本伝道部内各支部系図委員会のリストを作成致し度いので各支部系図委員会会長は至急リスト作成の上提出され度い。
二、ホーム・ティーチングを行う為にも多数の系図委員を必要

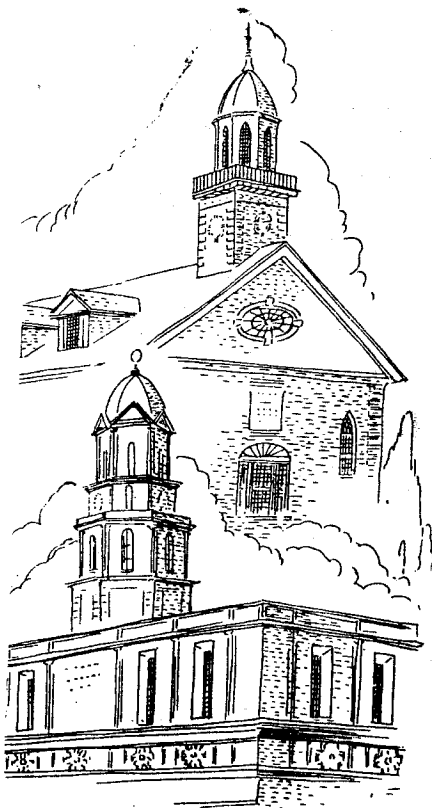
とするので、ワード部には最少限十六名の系図委員を容するのにもかんがみ、系図に熱意ある人は出来るだけ系図委員になってもらい、ホーム・ティーチャーを任命して早急にホーム・ティーチングを実施していただきたい。

三、系図の関心を高める為、系図劇其他特別の集会等を持つようにしていただきたい。

四、系図探求の貴重な体験又は、証詞を投稿していただきたい。質問があったら遠慮なく問合せて下さい。

伝道部系図委員会会長

渡部 正雄



若き末日聖徒の爲の物語

エマ・マー・ピーターソン著*渡部正雄訳

才三十一章

援けを探索する

(モーサヤ書、才八章及才二十一章)

リムハイ王は彼の民がレーマン人達の束縛から解放される方法を見出す決心を致しました。彼は若し彼の探偵がゼラヘムラ市を発見する事が出来たら彼の味方を得る事が出来ることを知っていました。彼はまた同様にその味方が事情を知ったら必ず人々を派遣して彼を援けに来るであろうと感じました。王はゼラヘムラ市を探しに遣わした最初の探偵が失敗したけれどもまた更に他の一団の者を遣わそうと決心しました。彼は、その民の中より最も優秀な者四十三人を呼んで彼等に再びゼラヘムラ市を探索しに行くように命じました。

これ等の人々は王の命令通り出発しました。間もなく彼等は道に迷ってしまい如何にして彼等自身の家に戻れるかわからなくなってしまうしました。けれども彼等は何かニーフアイ人達の町の徴を見つけようとしてなおも進みました。旅の途中、或日彼等は湖や河のある処に来ました。彼等はまたそこで家やその他の建物の跡、及び戦争で殺された数千人の人々のがい骨を発見致しました。そこにまた多くの家畜の骨もありました。彼等はまた戦場で使われたつるぎや胸当を発見しました。そこで彼等はリムハイ王に見せる為その幾らかを持って行きました。この戦場で彼等が殺されてからもう永い歳月がたつのでつるぎの柄はさびていました。刀身も同様にさびついて居りました。けれども此の兵士達が用いていた胸当は、銅や黄銅で造られておりましたのでさびて居りませんでした。

それから彼等は文字の刻みつけられた二十四枚の金版を見つけて大変驚きました。これ等の版はリムハイ王が持っている処のリムハイ王の時代及び悪王ノアの時代、現在彼等が居住している地に導いたゼニフの時代の事を記録した版によく似て居りました。彼等は発見した武器と共にその金版をも、リムハイ王の許にもって行くことにしました。彼等は更に旅を続けて遂にリムハイの町に戻る道を発見致しました。けれども彼等はゼラヘムラを発見することが出来ませんでした。彼等は家に戻ると直ぐリムハイ王の許に行つて彼等の旅の事に就て語りました。彼等はゼラヘムラ市を探索事が出来なかった事を詫言ひました。けれども王は家の跡や殺された人骨のある地に就て大変興味を持たれました。彼等は持帰った武器や金版を彼に見せました。リムハイはその版を見ましたがその文字は彼等のわからない言葉で書かれてありましたので読むことが出来ませんでした。王は探偵の言うことすべてを聞ききました。彼等の話を全部聞いた時彼はそれがゼラヘムラ市に相違ないと信じました。彼は町は破壊され住民は全部殺されたのだと思ひました。彼は考え違ひをしたのであり、ゼラヘムラ市は未だに存在し其処に住む人々は今もなお彼と彼の民に就て心配して居りました。

才三十二章

主なる神さまは

援けをもたらせ給う

(モーサヤ書、才七章)

リムハイの民はなおもへり下つて主なる神さまに束縛の境涯より解放されるよう祈り続けました。遂に主なる神さまは彼等の祈りに答えて彼等を援け始めようとなさ

れました。

ゼラヘムラ市に於けるゼニフに従った人々の親戚や友人達は、彼等がどうなったのだろうかとその身の上を案じて居りました。

その親戚、友人達は絶えずモーサヤ王の許に行つて彼等を探し求める為探偵を派遣するように頼みました。最初の内はモーサヤは之を拒んで居りましたがあまりにしばしば人々が要求して来ますので遂に彼は同意しました。彼は十六人の強い男を呼んで探し求めさせることにしました。

彼等の指導者の名をアンモンと言いました。彼はゼラヘムラ市建設者の子孫でした。アンモンは彼等を森の中に導きました。彼は彼等がニーフアイ市に行かねばならぬ事を知っていました。彼等は行くべき道を知りませんでした。彼及びその一行は直ぐ荒野に迷つてしまいました。彼等は約四十日間さまよつて遂にニーフアイ市に近い或岡に到達しました。彼等はそれに気づきませんでした。彼等はそれさまが彼等を正しい方向に導いていたのでした。

アンモンは大部分の者をその岡に残してそのうち三人を伴つてニ

ーフアイ市に降りて行きました。彼はこの市に住む者が果して敵であるか味方であるか知りませんでした。その地方には多くのレーマン人が住んで居りました。

間もなく彼等は町を見つけそれに向つて歩きました。其の町に到達する前に彼等は一団の兵士を伴つた王に逢いました。それはリムハイ王と彼の護衛兵達でした。彼等は直ちにアンモン及び三人の従者を取巻いて固く縛り町の中に連れて来て牢の中に投入されました。

アンモンが捕われた時、リムハイとその兵士達は丁度何時ものように牧農場の番と、ノアの祭司達を探す為町の外を歩いていました。王とその護衛兵達が城外に居る時に如何なる人と雖も城門に近づくことはリムハイ王の律法に反することでした。此の理由でアンモンと彼の従者は捕えられたのでした。リムハイは最初アンモンが果して敵であるか味方であるか見分けることが出来ず若しかすると悪祭司の一味であるかと思ひました。

アンモン及びその従者達は二日間牢屋の中に放つて置かれた後、賞問を受ける為リムハイ王の前に

連れ出されました。彼等は王の前に立たされた時も依然として固く縛られて居りました。

リムハイ王はアンモンに彼はゼラヘムラの地よりニーフアイの地にその民を導いたゼニフの子ノアの息子であると告げました。そこで彼は「今度は私がお前が何故かくも大胆に私自身が護衛兵と共に城外に居る時に我が城壁に近づいたかを聞きたい。今私がお前達に聞いただす事が出来るようにお前等の生命を保存したのであつてもなくば我が護衛兵をしてお前達を殺せるところであつた。お前は今語つてもよろしい」と云ひました。

アンモンは手は縛られたままでありましたが足は自由でした。彼は王座に向つて進み王の前におじぎをしました。そして彼は「おお王よ、私は今日生きてここに在り語る事を許され、しかも大胆に熱意を以て語れる事を神の前に厚く感謝致します。私は若し貴方が私を知つたらこのように私を縛らなかつたであらうと思ひます。私はゼラヘムラの子孫でアンモンと申す者でゼニフがゼラヘムラの地より連れ去つた、私等の兄弟をたず

ねてゼラヘムラの地を出て来た者であります」と言ひました。

リムハイは之を聞いて大変喜びました。彼はゼラヘムラの地に在る彼の親戚や友人達が今もなお生きて居り曾て彼の探偵が発見した地で滅んだのでない事を知つて喜びました。彼はまた遂に援けが来て彼等がレーマン人達の束縛から解放されるであらうことを感じて喜びました。彼は翌日アンモンに逢わせる為に彼の民を皆呼び集めると言ひました。それから彼は、彼等がレーマン人達の奴隷となり彼等の収獲の半分をレーマン人達に与えねばならぬ境涯にあることをもアンモンに告げました。アンモンとその従者達がまだ縛られてゐるのに気づいて王は護衛兵に彼等を自由にするように命じました。彼はまた岡に人を遣わして残りのアンモンの人々をも呼んで来しました。彼等は永い旅の飢で弱つていましたので介抱致しました。

宮殿の内は喜びに充たされました。アンモンとその従者達はリムハイが持つてゐる最上の物を与えられました。リムハイは彼等に彼が如何にその民の解放を熱望してゐるかを告げました。彼はその民

がたとえゼラヘムラに住むニーフ
アイ人達の奴隷となっても喜ぶで
あろう。なぜならその方がレーマ
ン人の奴隷となるよりはずっとよ
いからであると言いました。

才三十三章 民は喜ぶ

(モーサヤ書才七章、才八章及
才二十一章)

リムハイ王は翌日すべての彼の
民を呼集めてアンモンの来た事を
告げました。彼は「おゝ我が民よ
頭を上げよ、元氣を出せ、我等が
敵の手より解放される時は近づい
た。だから頭を上げ喜び神を信頼
せよ」と云いました。彼は彼等に
その昔主なる神さまがイスラエル
の民をエジプト人の奴隷から解放
する為導き出した時、如何にして
紅海の乾ける地を歩かせたか、ま
た彼等が飢えないよう荒野に於て
マナを給食したかに就て語りまし
た。彼は主なる神さまは彼等の逃
走をも援けるであらうことを信じ
ました。彼は彼等に彼等の束縛は、
彼等が主なる神さまを忘れ罪を犯
した結果であることを告げました。
彼は予言者アビナダイにどのよう
な事があったかに就て述べました。
彼はアビナダイの予言に言及して、
彼が如何に彼等が若し悔い改めな

ければ主なる神さまが裁判せられ
るのであらうと警告したかに就て語
りました。彼は彼等にイエスが救
主として世に来るであらうとのア
ビナダイの予言を思い出させまし
た。リムハイはゼラヘムラの民に
就て語ったアンモンの言葉を説明
して後アンモンに民の前に立つよ
うに頼みました。アンモンはゼニ
フが立去って後ゼラヘムラ市に於
て起ったすべての事に就て彼等に
語りました。彼は善良なベンジャ
ミン王の教え、即ちその民にお互
に愛し合い、貧しい人に恵み主な
る神さまに仕えるようにさとした
教えに就て説明しました。集会が
終ると王はその民を彼等の家に戻
しました。それから彼はゼニフが
ゼラヘムラの地を去ってから保存
して来た彼の民の記録を書いた版
を持出して来てアンモンに読ませ
ました。アンモンがその記録を読
み終るや王は彼が他の言語を訳せ
るかどうかたづねました。アンモ
ンは出来ないと言いました。そこ
で王は彼の探偵が乾いた骨の谷で
発見した二十四枚の金版に就て彼
に語りました。彼は「此の地に誰
も此の版に刻まれた言語を訳せる
者が居ない。だから私はお前に訳

せるかとたずねるのである」と言
いました。

王はアンモンがその新奇な言語
を訳せないで大変失望しました。
けれども彼は更に「お前は誰か訳
せる者を知らないか？私は此の記
録が我々の言語に訳される事を願
う。何故ならその記録はその記録
の発見された地に於て滅んだ民の
子孫に就ての知識を我々に与える
であらうから」と頼みました。

アンモンは訳す事の出来る人を
知っていましたので王に向って「
王よ、私は確にそれを訳す事の出
来る人を貴方に告げることが出来
ます。彼はその手中に見ることに
出来る昔のすべての記録を訳すこ
とが出来ます。それは神よりの賜
物であります」と云いました。
彼は王にその翻譯に使用される
器具を解訳器と名づけ誰でも主な
る神さまに命ぜられない限りそれ
をのぞき見る事が出来ず若しこれ
に叛くと死ぬであらうと告げまし
た。彼は更に続けて「ゼラヘムラ
に住む民の王は此の事を命ぜられ
た人で此の高貴な神よりの賜物を
持っている」と云いました。リム
ハイ王は彼と彼の民がレーマン人
より解放されたら彼は此の記録を

持ってゼラヘムラのモーサヤ王の
処に行つて訳してもらおうと望み
ました。リムハイはアンモンに彼
等の束縛及レーマン人から解放さ
れようとして戦つた彼等の戦争に
就て語りました。アンモンは此の
戦争で戦死した人々の死を悼みま
した。彼はまたアビナダイの死に
就て大変悲しみました。リムハイ
の民はアンモンが来たのを大変喜
びました。彼等はまた主なる神さ
まに仕えることを主なる神さまに
誓約し多くの者がバプテスマを受
けることを望みました。リムハイ
王もまたバプテスマを望みアンモ
ンに彼等全部にバプテスマを施す
よう頼みました。彼等はアルマが
如何に或人々を荒野に導いて彼等
にバプテスマを施したかを憶えて
居りました。彼等はアルマの民が
なしたと同じような事をしたいと
望み多くの者がアルマに従わな
かつた事を残念に思いました。
アンモンはよい人でありました
が彼は自分にその資格がないと思
いましたからバプテスマを施しま
せませんでした。リムハイ市には誰も
バプテスマを授ける権能を持った
人が居りませんでしたので其時彼
等はそこに教会の支部を組織しま
せませんでした。

日本伝道部の回顧

高木富五郎

(その一)

私が末日聖徒イエス・キリスト教会へ初めて来たのは明治四十二年(一九〇九)の秋でした。伝道部長がアルマ・オ・テイラー長老宣教師にはフレデリック・エイ・ケイン長老等十人ばかり日本の伝道に専念されていました。伝道本部は東京市四谷区霞岡町十六番地から牛込区薬王寺町八十一番地へ引越して間もない時分で、支部は札幌と甲府と盛岡の三ヶ所がありました。(盛岡は仙台から転じ更に大阪に変更された)

日本語に翻訳された福音書は極めて少く、ストケル長老訳の「末日聖徒イエス・キリスト教会略史」とテイラー長老訳の「モルモン経」の二冊があっただけ、このほかにパンフレットが七・八冊あって、それには(一)神の存在(二)神とは如

何なるものか(三)人は神とは如何なる関係を有するか(四)神の子イエス・キリストの略伝及び使命(五)福音の四つの原則と主なる儀式(六)祈禱及び其の必要(七)末日における此の教会の創立(八)日本伝道部を開始した目的並に此の教会と他の教会との異なる点などを説明したものでありました。また讃美歌も六十六篇の音譜附歌集と歌句だけの讃美歌集がケイン長老によって翻訳発行されていました。

その年(一九〇九)の夏、私が北海道小樽から初めて上京しました。まだこの教会を知らなかった十五才の私が上京することになると、札幌支部でバプテスマをうけていた実兄の高橋仁吉兄弟が「東京には末日聖徒イエス・キリスト教会の伝道本部があるから、其処へ行って、札幌支部で会員になつた小路千代子姉妹を訪ねなさい」と言つて来ました。小路姉妹は札幌で高橋兄弟や、現在札幌支部の熊谷たまの姉妹、東京北支部の白石源吉兄弟などと同じ頃バプテスマを受けた方です。

上京した翌月、私はドイツ人の会社給仕として勤務したので、田舎出の少年ではあったが外国人にあまり気おくれしなかったものです。それで或る日曜日の朝、神田の下宿先から出たの教会まで徒歩でたどりつき、玄関をはいると出迎えてくれたのがケイン長老でした。

すばらしくたくみな日本語で、心からしんせつなその態度には全く魅せられてしまひました。

それから私は大のケイン長老ファンとなり、後年ソルトレーク市へ行つた時も、製糖会社の労働部長をして居られたケイン長老を訪ねて、



北米ポートランド市の塩木千代子姉妹のお店(左端)

抱きついて涙を流したという想い出を持つようになったものです。ケイン長老の紹介で小路姉妹に会い、さらに小路姉妹のこの方には後に米国オレゴン州ポートランド市に農園を営む塩木氏と結婚して渡米されたので、私は後年ポートランド市に塩木姉妹を訪問して、

その大きな農園と立派な菜店を
見て来ましたの紹介で奈知江常
姉妹、その令嬢榮姉妹（横浜支部
の長尾姉妹）や波木井なみ姉妹（
横浜支部の鈴木なみ姉妹）佐藤森
三郎兄弟（現在群馬支部）などに
初めてお合しました。「お互いに
長生きしたものだ」と、鈴木、長
尾姉妹や佐藤兄弟に会う度毎に
五十年の過去を述懐することです。



長尾姉妹（1912）

神は一つ、真理は一つ、私たちは
この唯一の神の真理を探究するこ
との幸いをしじみと感ぜさせら
れます。

当時の日曜学校はケイン長老が
先生で、教会略史を勉強していま
した。信者と求道者を合せて十人
ぐらい。讃美歌のけいこも致しま
した。夜の聖餐式には私はまだ出
席せず、日曜学校が終るとすぐ、

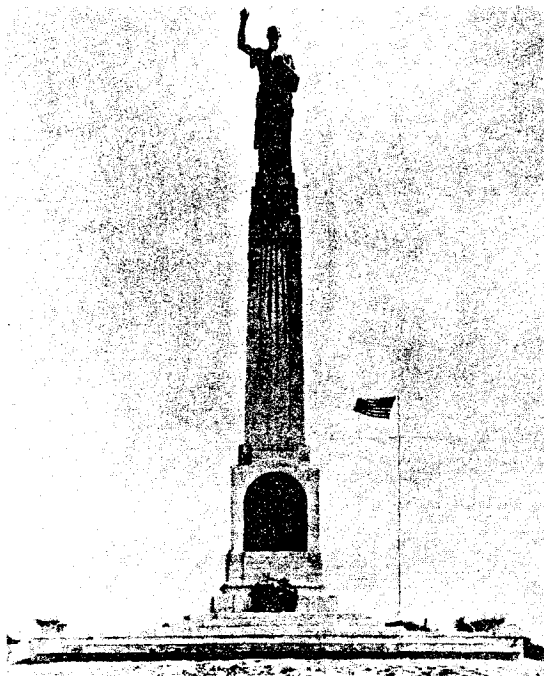
四、五十分の道のりを徒歩で神田
三河町（小川町停留所附近）の下
宿へ帰ってしまいました。

何日曜だったか記憶はないが、
相互発達協会（M・E・A）の集
りには遠い夜道をいとわず、出来
るだけ出席しました。テイラー伝
道部長やケイン長老のお説教があ
って、あとは合唱とかゲームを教
わり、まことに楽しい集会でした。
名前をことごとく忘れてしまった
が、相互発達協会の集まりがある
ので在京の宣教師たちとも懇意に
なる機会に恵まれたのでした。

まだ、日本伝道開始して八ヶ年
の初期時代でもあり、末日聖徒イ
エス・キリスト教会の日本伝道に
は色々な迫害のあった時代でした
から、宣教師たちの伝道に対する
努力は並大抵のものではなかった
ようです。それに教会へ集まった
日本人たちもまだ本格的な福音を
会得しようとするものが少なかっ
たようです。しかし、その中で最
も信仰の厚い模範的な信者は奈知
江常姉妹で、佐藤兄弟とか求道者
の都築直三君（後年朝日新聞航空
部次長）とかの血の気の多い若者
たちを正しい方向へ導くのに大い
なるお手伝いを致しました。

小さいながらも春秋の大会が催
されていきました。北海道から盛岡
から、甲府からも宣教師が十人ば
かり集まって東京本部で敬虔な会
合が催されると、宣教師たちが相
互発達協会で発表するアメリカ式
の色々なゲームが私たちにはこよ
なき楽しみでした。

テイラー伝道部長のお話は素晴
しいものでした。彼は立派な日本
語で、漢文調でした。哲学的で宗
教的で、威厳のある確信に満ちた
論調でした。彼のお話はほんとう
に権威があり、強い証しの表明で
した。ですから私たちは固ずをの
んで傾聴し、深い感動に打たれる
ことがしばしばでした。
こうした雰囲気育てられなが
ら、私は一九一一年二月、足のた
めに築地の林病院に入院して、し
ばらく教会へ出席することが出来
なくなりました。そして六ヶ月後
に退院して樺太の両親の許へ帰り、
一九一三年一月に再上京するまで
教会から離れるの餘儀なきに至り
ました。



モロナイ記念碑

ニユース欄

清涼な夏の箱根に

宣教師大会開かる

一九五八年六月二十四日から二十七日まで風光明媚な箱根国立公園で八十一名の宣教師のために特別大会が開催された。二十四日の朝早くから宣教師たちは箱根ホテルにつめかけ、その日を休息と美しい風景の観賞の中に過した。二十四日の夕方五時、宣教師たちは新館の食堂に相会し、かの有名な美しい富士山の見下すところでウエイトレスのサーヴィスのもとによく準備された美味しいお魚（ます）の料理をほうばった。

翌朝六時ある宣教師たちは汽車の旅で相当の疲労を感じているらしかったが、福音研究会が開かれ、その後に朝食が出た。この日の残りの時間は新たに改訂された「伝道計画の教授法」の提示、及びそれに關する活潑な討論会に費された。

二十六日の朝が来た。宣教師の断食日である。朝七時から午後の三時半まで連続して証詞会が開かれた。

聖靈の「みたま」は豊かに全宣教師に下り、すべての宣教師は神とキリストが真実に生ける御方であってイエスこそキリスト、世の救主であり、天父なる神とその御子イエス・キリストが実際に若き予言者ジョセフ・スミスに現われ、更に神の権能、及び神の唯一の誠の教会がこの末日に回復され、デビッド・O・マツケイ大管長は今日の生ける神の予言者である事を心から証した。この集會に列席したすべての人は自らは体験したことのよろこびの「みたま」を決して忘れる事はないであろう。二十六日の夕方、美味しい牛肉の料理にありついてから、才能あ

夕方からは宣教師の間題及び各支部の運営等に関する問題に就て話し合い、有意義な一時であった。

る宣教師によるタレントショーが開かれた。



我等のローカル・ミシヨナリー

前列左より、野田、佐々木、出原各姉妹、後列左より、新後閑、浅田、紙谷、福田、遠藤各長老



宣教師大会のスナップ

広島支部から

二十七日の朝、食事が終ると、宣教師たちは再び二人一組になり、心の思いを一新しつつそれぞれの伝道地に帰って行った。

(六月八日)ユタ州出身の西本定雄兄弟が当支部を訪問された。西本兄弟は現在アメリカの軍隊の一兵士として勤務しているが、系図の仕事に深い関心を懷いている人である。この日の夕方に系図のフアイヤサイド会が開催され、西本兄弟及び当支部の系図委員会の教師である鈴岡信子姉妹より話があって盛会であった。

なお当支部では九割一割計画に従い、近頃ハイファイの電蓄、椅子、蛍光灯等を購入した。

日高千鶴子姉妹

A・F・Sの交換留学生として渡米



高等学校で一年間勉学にいそむわけである。この留学生達は全国

より一次、二次、三次試験をパスした優秀な学生達である。

日高姉妹は一九五五年六月五日にバプテスマを受けている。当時の十三支部のあった淀川女子高校に入学したのがきっかけで、教会に集うようになったが、英語が得意で大阪の英語弁論大会に入賞した事もある。書道、ソロバン、英文タイプ等の特技もある。

西宮支部の会員で、今年十七才の淀川女子高校生の日高千鶴子姉妹は、八月二日、トラニス・カピリアン航空会社の特別機で、A・F・Sの交換留学生としてミシガン州のクロレ、スベル高等学校に入学の為渡米する事になった。A・F・Sとはアメリカ野戦奉仕団

と言い世界平和を目的として最初パリに起り、今三十ヶ国以上の国より十六、十八才の高校生をアメリカに迎え、またアメリカより他の国々に昨年は約二千人に近い学生が交換されている。

今年日本よりは三九人の高校生が日高姉妹と共に渡米し、各地の

教会に於ては西宮支部に移ってから、M・E・Aの会長会の一員として働いた。

現在は渡米前なので子供の日曜学校の音楽指揮者のみであるが、活潑によく働いているので、安芸中河、植村兄弟等の長老職にある会員達に妹のように可愛がられている。

渡米前のあわただしさの中をわずらわせて彼女にあかしを書いていただいた。次にそのあかしを載せたいと思う。

「私はこのA・F・Sの試験を通じて、常に心より祈り願い求め、

そしてそれが神の御心になった時かならず成就するという証詞をより一そう強くする事が出来ました。この教会を知りましたのは一九五四年九月六日でした。その時

私はまだ中学二年でしたが父が戦争で死に母とだけ暮して来た私は何かを求める気持ちが心の中にあつたのです。友人にさそわれて他の教会にも数回足をはこびましたが、満足な気分になった事はありませんでした。そんな時、学校のつごうで（淀川女子高校の中学でしたから十三支部が会を開いていた所です）この教会を知りそれから「日高さん変わったわね」と直にお友達から言われる様になりました。この福音を知る事によりバプテスマを受ける事を通じて人が変化するという事は大きな奇蹟であると心より思います。神様は求める全

ての人々に多くの大きい祝福を下さいます事を証詞いたします。

短い経験ですが教会員としての生活を通してこの教会こそ神の教会であるという事がはっきりとわかりました。そして何よりもすばらしい永遠の生命を得る為の方法を知り得ました事を心より感謝いたします。

神の恵なしで私は決してこの試験を通ることが出来なかった事、神の祝福なしにこんなに幸福な気持ちで生活出来ない事をよく知っています。

七月の終りには大阪にいないくなりますから責任をもらえないと思っていましたのに今は子供の日曜学校の音楽指揮の役目をいたたいと思っています、その事を心より感謝いたしています。

私の毎日の生活は神様へ感謝しなければならぬ事ばかりです。神様が現在私達と同じ様にいきでいらっしゃる事を心より信じます。そして、イエス・キリスト様こそ私達の救い主であると心より証詞させていただきます。

小樽支部の動き

長い冬眠に目覚めて蘇った様な自然は、北海道らしい雄大さで然も春と初夏が一時にやって来ます。五月五日のこどもの日は、小樽近郊の有名な景勝地、オタモイに炊事遠足をしました。海辺での味噌汁の味は忘れ難いものでした。五月十七日は、北海道地方部大会の

十一日、指導者会、MIA大会が行われ、礼拝支部のドラマ「延引の恋」に強い感動を覚え、系図の修正が如何に重要であるかを心から認識することができました。五月十八日は、神糧会、扶助協会、一般大会、聖餐式及び証会、ファイヤ・サイドが行われ、両日を通して御出席致しましたアンドラス伝道部長御夫妻のお話に、深奥から心のゆさぶられるのを感じ、また各支部の会員の交を暖め、各会員が力強い信仰と証を得ることができました。

会」に於て、それまでMIAの出席は十人程であったが、この日は卅五名程の出席で盛大に行われた。以後MIAは非常な発展をしている。

だった。その後川辺に丸く坐って討論会を行った。議題中「どういう時が一番楽しいか？」と言う質問に対し、求道者は「教会に来る事、それだけで楽しい」と答えた。なんと素晴らしい返事ではないか！今は会員、求道者団結して支部発展の為努力している。次に、新しい教会堂の設計についてシン長老

五月三十一日にはホット ドッグパーティーが催されました。これはとても野性味豊かなもので、かがり火で、竹を突きさしたソーセージを焼いて各自が好みの味をつけて食べるもので、ダルトン長老、トンプソン長老が、お国自慢の料理に腕を振り、まるで遠いアメリカの開拓時代にもどったような気持ちでした。

会 長 三宅 寿兄弟
才一副会長 リッシマン長老
才二副会長 加 納兄弟
書記 岡野さん
教師(会員) 湊、土屋 両姉妹
(求道者) 三宅邦太 兄弟

これからは燃えるような青葉の候です。小樽支部は大自然に見られる神様の恩寵に抱かれて、益々支部発展の為に努力しようと各会員は張切って居ります。

*六月一日の証会は真に素晴しかった。
会員、求道者の強い証に女の人達ほとんどが目にハンカチをあて、シン長老も目に涙を浮かべる程のそれはそれはすばらしい証会だった。

岡山支部の発展ぶり

五月八日は、新しいMIAの役員が決定されました。会長、湯沼誠二兄弟、才一副会長、田中久美子姉妹、才二副会長、小林毅兄弟書記、物江恵美子姉妹、その他心強いスタッフがとみに出席者の増

*四月十九、二十日の南地方部広島大会には当支部より、会員二十一名中十名が出席する(内学生八名)

*四月廿四日(木)MIAにてライト長老の送別会を行う。当夜、十時シン長老を東京より迎える。

*五月廿九日(木)の「金と緑の舞踏

でもとても楽しい食事



の名設計者振りを發揮してもらい、その設計図について討論した。我々支部は土地を買い、さっそく教会堂を建てる計画をしている。この日は皆な雨にも負けぬ信仰振りであった。特に雨の好きなシン長老はともうれしそうだった。出席者は会員十一名、求道者六名。長い間足踏みしていた岡山支部も今は猛発展振りを示している。日曜学校も沢山の人が出席するようになり、特に求道者の出席が増えた。そして六月廿二日には砂田、岡野、山本各姉妹がバプテスマを受ける事になっている。このような発展は、今迄握手をいかなかった当支部が、シン長老の勧告により皆なお互に暖かい握手をするようになったおかげである。

(三宅 寿)

三宮の M I A 晩餐会

三宮支部では六月廿一日(土)の晩、支部第足以来初めての M I A 晩餐会が催されました。地方部長のバック長老・ポータ長老も見え、ホール・ナント両長老はじめ会員、お友達合せて三四名が出席しました。

会場は、碇泊中の船の灯火が映える港を眺めて、神戸新聞会館四階サロンで午後七時開会されました。M I A 会長にな川兄弟のお話とテーマ朗読があり、食事のできるまで歌や楽しいお話に時の過ぎるのを忘れしました。「ホームのうちに愛あそばさる歌」の歌声にのせて会場いっぱい和やかな雰囲気になりました。



三宮支部の授賞晩餐会 (にな川兄弟撮影)

さんざん待たせたおげく、やと晩餐になりましたが配られてききかった事でした。た食事をみて一番うれしかったの 晩餐後再び歌を歌ったのち、九

人の会員がバック長老から賞状とピンを授与されました。支部ができてから一年もたたぬのに一年分の賞状とピンをもらって、みな今年こそけすばらしい M I A にしようと思いを新たにしたのでした。会が終ってみんなで写真をとりました。会場のガラス越しに神戸の街を見下すネオンが夜空に美しく輝き、三宮支部の輝かしい将来を祝福するかのようでした。

(山邑陽一)

甲府支部大会

甲府支部大会が六月一日、シンズ地方部長、遠藤長老を迎え、九時から神権会、扶助協会、時半から一般大会が開かれ主日は「教義と聖約、高価なる真」でライト長老「教会の設立 山本照子姉妹「教義と聖約の内容」遠藤長老は「教義と聖約、高価なる真珠がどの様にして神から与えられたか」清水兄弟は「聖書の外に二冊の聖書(モルモン経、教義と聖約)を学ぶ事が出来る」と感謝し高価なる真珠について、モーセの書、アブラハムの書」を力強く語られました。

た。十二時半から聖餐式が始まり、の反省」が語られ聖霊の導きによ
長老、会員、求道者の強い証とシ
って有意義な大会を過ごす事が出来
ました。



モンズ地方部長から「モルモン経 聊される山本久子姉妹の送別会が
の内容と甲府支部長をしていた時 行われました。

夜七時から
四人の長老
を交えての
ファイヤサ
イドが開か
れ、戸沢兄
弟の司会に
よってゲー
ムが行われ、
声楽、とん
ちんかん問
答、私に難
でしよう。
と楽しい一
時を過しま
した。

六月廿二

日の日曜学
校でマリン
長老の転任
が発表され、
夜は広島
転任なさる
マリン長老
と山形へ就
と山形へ就
と山形へ就

後任宣教師として柳井支部からバ
ートン長老、札幌支部からマース
長老を迎えました。

(早川 蘭子)

岡町初の幼児祝福



岡町支部
では六月
八日初め
てポール
長老によ
って幼児
の祝福が
あった。
坂本純子
ちゃん
す(生後
廿九日、

父松本弘兄弟、母阪本晴子姉妹)
次いで六月十五日ポール長老によ
って北岡千明ちゃんも祝福をうけ
た。(三十一年十一月五日生、父
北岡やす男、母田部みづほ姉妹)
* MIA 授賞者。本年度の授賞者
として六月十九日の晩餐会で賞状
とメダルを受けた人は左の通りで
す。

富山、阪本弘、辻、岩国、高橋、

安斎、各兄弟と野本君、村川、森
岡、ます田、宇佐見寿子各姉妹
* 補助組織新役員。MIA 才二副
会長富岡康、各級教師(演劇)阪
本弘、(演説)阪本吉章、(新求
道者)阪本泰造、(会員)江見和
子、(古い求道者)森岡千鶴子、
(書記)中島美智子。日曜学校
(年少求道者)河村雄弘、(書
記)河村修三。
* ダンスパーティー。六月二十八
日夜 MIA 主催で建築資金募集
のため大池小学校に開催、
雨天であったが約五十名参加、
楽しく熱のある集りでした。
上の写真は右阪本純代ちゃん
左北岡千明ちゃん
(阪本 幾代)

原稿募集

- 一、支部活動状況 (四半誌二枚)
- 一、証 詞 (同 一枚)
- 一、詩、和歌、俳句 (題 隨意)
- 一、集会、支部役員等の写真
- 一、切 毎月末日(切紙)
- 一、送り先 港区麻布台町 十四
- 末日聖徒イエス・キリスト教会

編 集 部

た
よ
り
(六月三十日現在)

地方部長、支部長異動

ウイリアム・D・シモンズ	東中央地方部長
V・ガース・ノルマン	西中央地方部長
ダヴィッド・R・バルトン	甲 渾支部長
ネッド・L・クリステンセン	新 渥支部長
カトル・ブロツク	三 宮支部長
ウォルター・K・クラウス	阿倍野支部長
Q・ロナルド・ヴァン・ルウベン	名古屋支部長
ジャン・ウイン	松 本支部長
カール・T・ボーブ	岡 町支部長
オリオン・H・ウツド	金 沢支部長
ドナルド・H・ゴズリング	福 岡支部長

宣
教
師
移
動

出 原 願 子 姉妹 (札幌)
 ジョアン・R・アイザック 姉妹 (横浜)
 マリリン・ハツグ 姉妹 (岡町)
 佐々木 八重子 姉妹 (広島)
 村上 ゆきえ 姉妹 (金沢)
 シャーレイ・H・モリカワ 姉妹 (横浜)
 マリー・クルック 姉妹 (広島)
 ロバート・M・グッドマン 長老 (本部)
 新後閑 義雄 長老 (本部)
 ラドン・ヴァン・ノイ 長老 (東京北)
 ベター・ケント・モーン 長老 (広島)
 ウイリアム・トンブソン 長老 (仙台)
 デルレイ・ブラウ 長老 (東京中)
 ロバート・S・デヴィス 長老 (東京中)
 ウイルフ・オード・B・アステル 長老 (名古屋)
 ラーリー・ポータ 長老 (東京中)
 トマス・アンダーセン 長老 (東京中)
 リチャード・ポーター 長老 (東京北)
 トーマス・E・モース 長老 (甲府)
 エドワード・J・ウエル 長老 (新潟)
 レイ・フィリップス 長老 (岡町)
 ジョージ・W・パーキンス 長老 (岡町)
 ギャラリー・スミス 長老 (名古屋)

宣
教
師
到
着

ジョン・D・チエース長老 (名古屋)
 ジーン・ヤマガタ長老 (阿倍野)
 ガース・リツシマン長老 (広島)
 グルース・K・メーヤース長老 (広島)
 チヤイレス・グリフィン長老 (柳井)
 トーマス・R・ヘーグ長老 (福岡)
 マルコム・テイラー長老 (東京西)
 ジョン・ワンラツス長老 (松本)
 ターリル・バーガー長老 (群馬)
 ケネス・オルトン長老 (金沢)
 ロバート・C・パンダイク長老 (西宮)
 ロバート・A・スラツク長老 (岡山)

祝福

（シアドル市）
レオン・ハント・フリーラー長老
（アリゾナ州プレスコット）
ミエコ・マーガレット・ヤマシタ姉妹
（ホノルル）

祝 福

ロバート・アーウィン・オルソン（誕生一九五七年十二月二十一日、横浜、父ベンソン。E・オルソン、母根本キミ）五月四日渡部正雄兄弟により祝福さる（横浜支部）

結婚

石川 せい子姉妹（広島）大原正 郎君
（四月十三日）
藤田 きく子姉妹（福岡）坂本けん一君
（五月九日）
小野寺 ゆき男兄弟（室蘭）吉川きよ子姉妹
（五月三日）
藤田 秀光兄弟（札幌）大場たか子姉妹
（五月三日）
熊倉 裕一兄弟（新潟）前田とよみ姉妹
（五月十五日）
竹内 久男兄弟（新潟）木村静子嬢
（三月二十九日）

計報

磯推とき子姉妹（四二）東京中央支部才一副支部長磯推正三兄弟の夫人は五月十五日中央支部において急逝された。

藤田よしのり兄弟（二五）室蘭支部のアロン神樹「教師」の同兄弟は五月十九日自動車事故のため急逝された。

新野悦子姉妹（二五）東京西支部の新野慎介兄弟の夫人は異常出産のため五月二十五日入院中急逝された。

神
權
授
与

外 仁 韓 國 支 部 に 執 事 三 名	六 八 吳 屋 仁 榮	五 二 八 橫 田 公 純	四 二 七 本 間 八 四 郎	五 二 五 川 島 一 夫 剛	六 八 石 川 隆 一	六 四 野 村 吾 郎	五 四 鈴 木 達 郎	四 二 七 庄 上 邦 彦	一 九 谷 英 雄	四 二 七 柳 沢 俊 雄	五 二 六 三 沼 宅 治 郎	六 二 五 伊 藤 正 七	五 四 加 藤 勝 從	五 四 岩 瀨 南 隆	四 二 〇 戸 沢 行 男	五 一 三 高 橋 雅 彦	月 日 氏 名
執 事 普 天 間	祭 司 普 天 間	教 師 橫 浜	祭 司 橫 浜	執 事 橫 浜	執 事 山 形	長 老 山 形	教 師 東 京	執 事 北 台	長 老 仙 臺	祭 司 岡 宮	執 事 西 宮	祭 司 名 古 屋	執 事 名 古 屋	執 事 名 古 屋	教 師 甲 府	執 事 群 馬	支 部

新中矢關桐船丹小飯上高稻山岩前三崎大
の
外城谷上田田崎本垣柳村部泉林沢越生吹次川垣
韓
国敏真一文公秀ス教イ節わ淑志けけと富紀朝
支由顯ナツかいし代
部子美男顯平二エ子子子子子学郎子い子郎子鏡
に
六
名(那)(横)(柳)(東)(東)(東)(東)(東)(仙)(札)(岡)(甲)(広)(群)(旭)(東)(那)
京京京京京京京京京台幌山府島馬川南
額浜井西西西南北北台

詩藻

詩 種をまく

室蘭 鈴木正治

うまずたゆまず種を蒔き種を蒔く
すべての兄弟を救い
永遠の生命と正義のために
暗闇を通して目あては輝やく

愛と真理の大きいなる泉
永遠にかわらぬ生命の泉
それらは私達に行く手を告げる
はつきりとまっすぐに定まっている
私達がえらんだその道は

誘惑も嘲笑も何のその
アジアの民もアメリカの民も
そしてアフリカの民もヨーロッパの民も
みんな私達は神の子だ

さあ、行こう、たゆまず、おそれず
すべての聖徒は心を併せ
大いなる一家のまどいを作る
大きく輝やく神聖な目的に向って

いつもかわらず種を蒔き種を蒔く
後の世代を考えながら――
やがて花開き実結ぶだろ
その時迄、耐え忍ぶなら――

(聖徒生活雑誌より)

短歌 ふるさと

東京北 高木 とも子

北海の小島なれども「利尻島」わが初恋のふるさとよ君

五十年会わでふるさとひたこいしふるさとは
我がこころなりせば

振りすてしふるさとなれど五十年かえりみざるをいまにして悔ゆ

さもあらんかもあらんなど五十年の苦難を経
たる岩山を想う

五十年見ざるふるさと恋い来ればいまに変わぬ山を見しかな
―― 昨夏帰省の習作――

家庭集會

東京北 細谷 ふさこ

思わざり四十路に入れる今にして異国の君に
道を問うとは

君が言カタコトなればひとしおに胸に響きぬ
真理の教

目の青き客とも知らで吾が猫の
ひざをしたいて這いよりて行く

俳句

木綿の花

東京南 渡辺八重子

木綿の花ふるき言の葉うつくしく
蝶たちぬ木綿の花びらゆるゝとき
美しき木綿の花とてたたずめる

大岩にもたれて朴の花あおぐ
アカシヤの落花さかんに夕かしぐ
病葉をうけとめし水ゆるやかに
七夕のねがいの歌のしるされぬ
聖書読むバラの匂いのこぼるゝ夜
さびしさになしさに耐えダリヤ白
ものがたりめきて我あり花ひさご

思ひ出

東京中央 礫 推 正 三

病葉に死よりも強い愛のあり
陽を待たであでやかに落ちて寒椿
おしどりの一羽は休む百合の下
残雪や故山に眠る妻のため
毎日を想いつめてし五月女や
智恵に似て狂いもせぬにレモンはむ
夫恋うて春夜を泣きし小屋もあり

東京西支部の俳句会

六月二十二日に行われた五月と六月の句の選句の結果は次のようになりました。

五月句（季題） 鯉のぼり 香水

行く春や河原に児等の釣くれて
風なくて泳ぎ疲れし鯉のぼり
矢車の音も勇まし初のぼり
はらはらとちりゆく花に春惜む
香水の香り残して友帰る
香水の女片すみの終電車
草花のあきらめし頃に初芽かな
下町はのぼりも見ない五月空

鈴木 兄弟
磯田 兄弟
コリガン 姉妹
小室 姉妹
鈴木 兄弟
磯田 兄弟
島田 兄弟

六月句（季題） あわせ たけのこ

竹の子を掘りし我が手に朝の露
あわせをば着るひまもなく日々過ぎぬ
春行きてわずらわしきやつゆの日々
あわせぬぎ身もかるがると五月晴
あわせ着て今日は娘のしとやかに
たけの子の香にしのばれる故郷の友
竹の子に笹の葉出ればたなばたに

コリガン 姉妹
小室 兄弟
岡本 姉妹
コリガン 姉妹
小室 姉妹
小室 兄弟
野村 兄弟

[illegible]

M T A

注文は各支部長へ

末日聖徒讃美歌	300円
末日聖徒讃美歌抜萃	30円
子等は歌う	100円
レクリエーション歌集	400円

◎伝道部長はそのメッセージに於て当伝道部の現在及び将来の立場につきカウレイ長老の予言を引用して力強く述べておられる。この予言を成就するために、私たち聖徒の一人々は誠実を以て協力し、総力を以て王国建設にまい進せねばならない。

◎いつも言われているように、私たちに常に誠意を以て教会を愛し、隣人を愛し、出来るだけ多くの人に狭き門の在りかを教え、てあげるよう心がけたい。

◎「聖徒の道」は月とともに整飾されて来ました。この素晴らしい「道の灯」を会員たち一人残らず購読するようにお勧め致したい。それには各支部が、所属会員ことごとく、特に新たにバプテスマを受けて会員となられた方には是非購読されるよう努力して頂きたいことです。

◎投稿の切は毎月末日です。切日を厳守して頂きたい。

- 36 -

一九五八年三月十七日
第三種郵便物認可第二卷第八号
一九五八年八月一日発行
発行人
編集人

ホール・C・アンドラス
発行所

末日聖徒イエス・キリスト教会
北東部伝道部

東京都港区麻布広尾町十四



左からエンサイン長老、テイラー長老、グラント長老、ケルチ長老。

1901年8月12日の早朝、東京港に入港した“エムプレス・オヴ・インディア”号に4人の宣教師が乗船していた。彼らは棧橋におりたつと物めずらしげにあたりを見廻し 附近にたむろしている人力車の間をぐるぐると歩き廻っていた。やがて横浜市のグランド・ホテル差し向けの人力車を選ぶとそれに乗り込んだ。この宣教師たちこそ、日本にやって来た最初のモルモンの宣教師であった。